

# ～In His Footsteps～イエスの歩み

## イエスの弟子となる学び

これからの30日間、私達は心に響く学びである「イエスの弟子」について心を掘り下げていきたいと思えます。イエスが弟子を訓練する際、イエス自身がまず良い弟子であったということは注目すべきことでしょう。イエスの地上での人生は約30年間でしたが、その期間、イエスはどのように神に従うかを学ばれました。イエスは神様、旧約聖書に登場する預言者達、家族、親戚であるバプテスマのヨハネなどから多くの影響を受けました。

私達は常に洗練されるよう、そして成熟するように努めなければなりません。イエスの弟子としての召命は日々の決心です。主において歩んでいく、そのゴールは「さらにイエスのようになる」ということでしょう。この学びはそのゴールが成し遂げられるように考えられたものです。あなたの「イエスの歩み」に対する思いが更に熱いものとなりますように！

1	イエス、神様の栄光を現わす
2	イエスの生きる目的
3	イエスと従順さ
4	イエス、指導者と権威への服従
5	イエスの神様への信頼
6	イエスの完璧なる模倣
7	全ての人の僕であるイエス
8	イエスと友人達
9	感情を開示したイエス
10	イエス、ベストを尽くし卓越した人生
11	イエスは喜びと感謝にあふれる人
12	イエスと金銭
13	模範的なディサイプラー①土台
14	模範的なディサイプラー②関係
15	模範的なディサイプラー③訓練

16	神様に栄光を帰す弟子
17	弟子の目的
18	弟子としての従順
19	指導者や権威に服従する弟子
20	弟子として神様に依り頼む
21	弟子は模倣によって成長する
22	僕として生きる弟子
23	イエスの弟子としての歩み
24	心を包み隠さず光に当てる
25	卓越を目指そう
26	弟子として喜び、感謝しよう
27	金銭を賢く使う
28	ディサイプラーとして①土台は築かれた
29	ディサイプラーとして②関係を深める
30	ディサイプラーとして③訓練を始める



1

学びの柱：イエスがこの世に来た目的は神様の栄光を現すことでした。

聖句：

ヨハネ 17：4－5

わたしは、行うようにとあなたが与えてくださった業を成し遂げて、地上であなたの栄光を現しました。父よ、今、御前でわたしに栄光を与えてください。世界が造られる前に、わたしがみもとで持っていたあの栄光を。

ヨハネ 12：27－28

「今、わたしは心騒ぐ。何と言おうか。『父よ、わたしをこの時から救ってください』と言おうか。しかし、わたしはまさにこの時のために来たのだ。父よ、御名の栄光を現してください。」すると、天から声が聞こえた。「わたしは既に栄光を現した。再び栄光を現そう。」

ヨハネ 1：14

言は肉となって、わたしたちの間に宿られた。わたしたちはその栄光を見た。それは父の独り子としての栄光であって、恵みと真理とに満ちていた。

なぜ、私はここにいるのか——世代を超えて多くの人を持つ問いです。神様は、各人の存在理由を定められました。イエスも人として生きる目的を持って存在しました。ご自分の目的は神様の御業を成し遂げることだと悟られていたイエスは、12才のとき、神様の御業を行なうために父の家にいるのは当然のことであると、両親に力強く伝えました(ルカ 2:49)！人々のために、また神様の栄光を輝かせるために、イエスはご自分が神様の元を離れて贖いの計画をもってこの世に来られたことを理解していました。また、一人ひとり神様の輝かしい恵みを讃えるために創造されました(エペソ 1:6)。それはイエスの目的でもありました。

1. ヨハネ 17：4－5 イエスは神様の栄光を現すために来られたということは明確です。神様はイエスをこの地上に送られ、イエスはその目的を成し遂げられました。イエスには目的があり、イエスの生きる日々はそのために与えられたものであり、最終的に神様に栄光をもたらしました。あなたの日々も神様に栄光をもたらしていますか。神様があなたを選び出し、あなたによって神様の栄光が輝くという目的を日々満たしていますか。
2. ヨハネ 12：27－28 イエスは十字架を前にした極限の苦しみに直面し、その中で神様を讃えています。イエスにとって厳しい試練の時でした。しかし、どんな試練の渦中でも、イエスは神様に不従順になりませんでした。従順であることのみが選択でした。従うことが難しいあまり、神様に不従順になってしまうことがありますか。その結果、私達は神様に栄光をもたらすことができなくなります。
3. ヨハネ 1：14 イエスは正確に神様を描写し、神様の栄光を映し出しました。イエスを見ることで神様を知ることができました(ヨハネ 14:9)。イエスは神様の真の姿をこの世に

示す光でした(神様は世の光)。あなたはこの世に対し、どのくらい正確に神様を映し出しているでしょうか。

なぜイエスはこの世に来られたのでしょうか。それは人々を救いに導くためであり、それは神様の栄光を現わすことでもあります。あなたはなぜここにいるのでしょうか。それは周囲の人にイエスを知らせ、またイエスによる救いを通して神様の栄光を現わすためです。

課題：あなたがどのように神様の栄光を現わしているか、書き出してください。

## 2日目 イエスの生きる目的

学びの柱：イエスには人生の目的を成し遂げる堅い決意がありました。

ルカ 19 : 10 人の子は、失われたものを捜して救うために来たのである。

マルコ 1 : 35 - 39

朝早くまだ暗いうちに、イエスは起きて、人里離れた所へ出て行き、そこで祈っておられた。シモンとその仲間がイエスの後を追い、見つけると、「みんなが捜しています。」と言った。イエスは言われた。「近くのほかの町や村へ行こう。そこでも、わたしは宣教する。そのためにわたしは出て来たのである。」そして、ガリラヤ中の会堂に行き、宣教し、悪霊を追い出された。

ルカ 13 : 31 - 33

ちょうどそのとき、ファリサイ派の人々が何人か近寄って来て、イエスに言った。「ここを立ち去ってください。ヘロデがあなたを殺そうとしています。」イエスは言われた。「行って、あの狐に、『今日も明日も、悪霊を追い出し、病気をいやし、三日目にすべてを終える』とわたしが言ったと伝えなさい。だが、わたしは今日も明日も、その次の日も自分の道を進まねばならない。預言者がエルサレム以外の所で死ぬことは、ありえないからだ。」

私達は皆、人生の目的を明確に持たずに暮らしていたのではないのでしょうか。理由もなく生きることで空しい気持ちにさせられます。神様は、私達に生きる目的が必要であることを理解なさっています。だからこそ、私達の完全な模範としてイエスを与えてくださいました。私達がイエスを通して学べることは、生きる目的を忘れてはいけないということです。どんなに忙しくても、神様から託された目的を成し遂げることを決して忘れてはなりません。

1. ルカ 19 : 10 人の子は、失われたものを捜して救うために来たのである——イエスは、自分に救われる価値がないと感じていた人に対して、この言葉を言われました。イエス

は社会的な常識を気にしませんでした。イエスの人生の目的は人々の魂を救うことでした！あなたの人生の目的は何ですか。魂を救うことですか。それとも結婚ですか。子育てですか。勉強や仕事ですか。自分に正直になってください。あなたの生き方からイエスの目的が見えるでしょうか。あなたは本当にイエスやイエスの目的を映し出していますか。このポイントをより理解できるよう、Ⅱコリント3：18、Ⅰヨハネ2：6を精読してください。

2. マルコ1：35－39 イエスは人生の目的から目を逸らさず、日々の出来事によって目的の達成を妨げられることがありませんでした。イエスの教えや癒しの評判は知れ渡り、人々から留まってほしいと請われましたが、振り返りませんでした。他の町や村でも宣べ伝える目的があることを見失いませんでした。あなたは、何か突発的な出来事によって人生の目的を後回しにすることがありますか。それはどういう場面ですか。

3. ルカ13：31－33 イエスは目標を達成しようとするところでした。誰にも、たとえ皇帝でもそれを妨げることはできませんでした。あなたには、神様の目標を妨害するのをつい許してしまう人はいますか。家族、友達、上司、恩師などはどうですか。彼らは神様の目的を成し遂げる上で妨げになっていませんか。あなたの人生で、神様の目的を成し遂げる妨げは何か、あなたがどのような妨げを怖れているか書き出してください。そして、神様に赦していただくように祈りましょう。今日、悔い改めて立ち向かってください。

あなたの人生の目的は、この世を伝道することですか。それは教会のリーダー達だけの目的でしょうか。今日、バプテスマを受けたときと同じ心でいますか。今週、誰に信仰を分かち合いましたか。イエスへと導くために誰と関係を深めていますか。あなたの人生からそのフォーカスを奪うものが何かありますか。近い兄弟姉妹と分かち合ってください。

課題：あなたの人生の目的は何ですか。よく考えて書き出してください。

### 3日目 イエスと従順さ

学びの柱：神様の御子イエスでさえ、神様に従わないことを免除されませんでした。

ヨハネ6：38

*わたしが天から降って来たのは、自分の意志を行うためではなく、わたしをお遣わしになった方の御心を行うためである。*

ヘブライ5：8

*キリストは御子であるにもかかわらず、多くの苦しみによって従順を学ばれました。*

マタイ26：39

*少し進んで行って、うつ伏せになり、祈って言われた。「父よ、できることなら、この杯*

をわたしから過ぎ去らせてください。しかし、わたしの願いどおりではなく、御心のままに。」

神様の期待に従順でいられるために、イエスに何か特別な賞与が与えられたわけではありません。反対に、イエスは神様と等しい身分であるのに、それを無にしました。なおかつ、イエスは全ての人の僕にならなければなりませんでした(フィリピ2：5－11)。しかし、イエスが神様に特別な待遇を願う場面など全くありません。むしろ反対のことはあります。まさにイエスが最も神様を必要としている場面——十字架に架けられている間——神様はイエスに背を向けていらっしやったのです。それは人が救われるために必要なことであり、神様の愛の深さを現わしているのです。

1. ヨハネ6：38 イエスは、この世に来た目的は天の父に従うことであると明らかにしました。私達はどうでしょう。私達は、もう大人になったのだから親の言うことになど従わなくてもいいと思いがちです。弟子として歳を重ねてきた今でも、人生の目的は神様に従うことですか。従順であることを喜べますか。神様からの戒めを誇りに思っていますか。それとも最小限に必要なことだけに従おうとしていますか。

2. ヘブライ5：8 神様の御子イエスでさえ、試練を通して従順さを学ばなければなりませんでした。イエスは生まれながらに完全な従順さを備えていたわけではありません。イエスも私達と同じように教えられる必要がありました。試練によって学ばされました。私達が従順になりにくいのは試練を受け入れることが難しいからかもしれません。

3. マタイ26：39 従うことはイエスにとっても容易なことではありませんでした。イエスは神様の御心と自分の願望との間で格闘しなければなりませんでした。イエスは十字架の前に、恥辱や恐怖と闘いました(ヘブライ12：2)。イエスは自分の感情に負けず、勝利者となりました。あなたは神様に従うために自分の感情と葛藤していますか。イエスを見倣うことなしに、私達が従順さを学ぶことは難しいことでしょうか。

あなたの従順さに対する印象はどうでしょう。必要なことだと信じていますか。従うことが神様の栄光を輝かせ、御心を成し遂げることでであると理解していますか。試練が従順さを成長させるということが分かりますか。

課題：神様に従順になれていないことを3つ書き出してください。それらについてお祈りしてください。



#### 4日目 イエス、指導者と権威への服従

学びの柱：私達もそうであるように、イエスも神様が与えた権威者の支配下にいました。

ヘブライ 5 : 7 - 9

キリストは、肉において生きておられたとき、激しい叫び声をあげ、涙を流しながら、御自分を死から救う力のある方に、祈りと願いとをささげ、その畏れ敬う態度のゆえに聞き入れられました。キリストは御子であるにもかかわらず、多くの苦しみによって従順を学ばれました。そして、完全な者となられたので、御自分に従順であるすべての人々に対して、永遠の救いの源となり、

ルカ 3 : 13 - 17

ヨハネは、「規定以上のものは取り立てるな」と言った。兵士も、「このわたしたちはどうすればよいのですか」と尋ねた。ヨハネは、「だれからも金をゆすり取ったり、だまし取ったりするな。自分の給料で満足せよ」と言った。民衆はメシアを待ち望んでいて、ヨハネについて、もしかしたら彼がメシアではないかと、皆心の中で考えていた。そこで、ヨハネは皆に向かって言った。「わたしはあなたたちに水で洗礼を授けるが、わたしよりも優れた方が来られる。わたしは、その方の履物のひもを解く値打ちもない。その方は、聖霊と火であなたたちに洗礼をお授けになる。そして、手に箕を持って、脱穀場を隅々まできれいにし、麦を集めて倉に入れ、殻を消えることのない火で焼き払われる。」

マタイ 3 : 13 - 17

そのとき、イエスが、ガリラヤからヨルダン川のヨハネのところへ来られた。彼から洗礼を受けるためである。ところが、ヨハネは、それを思いとどまらせようとして言った。「わたしこそ、あなたから洗礼を受けるべきなのに、あなたが、わたしのところへ来られたのですか。」しかし、イエスはお答えになった。「今は、止めないでほしい。正しいことをすべて行うのは、我々にふさわしいことです。」そこで、ヨハネはイエスの言われるとおりにした。イエスは洗礼を受けると、すぐ水の中から上がられた。そのとき、天がイエスに向かって開いた。イエスは、神の霊が鳩のように御自分の上に降って来るのを御覧になった。そのとき、「これはわたしの愛する子、わたしの心に適う者」と言う声が、天から聞こえた。

マタイ 23 : 1 - 4

それから、イエスは群衆と弟子たちにお話しになった。「律法学者たちやファリサイ派の人々は、モーセの座に着いている。だから、彼らが言うことは、すべて行い、また守りなさい。しかし、彼らの行いは、見倣ってはならない。言うだけで、実行しないからである。彼らは背負いきれない重荷をまとめ、人の肩に載せるが、自分ではそれを動かすために、指一本貸そうともしない。

天と地の創造主であるイエスが権威者の支配下にいるということに違和感を覚えるかもしれません。誰もが認める主の主、神様の御子なるイエスが、です。イエスは神様と等しい

立場を喜んで捨て、僕の身分になりました(フィリピ2：7)。今日は、イエスがリーダーや権威者の支配下にいたことをイエスの人生を通して学んでいきます。

1. ヘブライ5：7-9 イエスの祈りは“畏れ敬う態度”のゆえに認められました。そのような態度で試練を通して従順さを学んだのです。イエスは権威者に歯向かいませんでした。イエスでさえ、権威者に従うことを免除されなかったのなら、私達はどのように従うべきでしょうか。私達の祈りも“畏れ敬う態度”により神様に聞き入れられるでしょう。

2. ルカ3：13-17 イエスは両親にも従順でした。たとえ両親がイエスの言動を理解できないときでも、イエスはそれを不服に思ったりしませんでした(cf. ヨハネ2：1-11)。

3. マタイ3：13-17 必ずしも必要ではなかったことでしたが、イエスは神様に服従していたからこそバプテスマのヨハネの説教も受け入れました。イエスは罪を犯したことがない方でしたが、バプテスマのヨハネという預言者の言葉であるがゆえに従い、罪の悔い改めのバプテスマを受けたのです(マルコ1：4)。

4. マタイ23：1-4 イエスの私達への期待は、たとえあなたの上に立つ権威者が不条理な人であっても従うということです。その権威者の不正行為に従うわけではなく、権威を尊重するのです。神様に信頼し、たとえ偽善的なリーダーシップでも尊重すべきです。

イエスがこの世の権威に従うのであれば、私達が不従順でいられるでしょうか。この世の権威者に対して従うことが難しい理由を3つ書き出してください。それを近しい友人に見せてコメントをもらってください。

課題：あなたに対して権威のある人を全て書き出してください。

## 5日目 イエスの神様への信頼

学びの柱：神様に頼ることは弱さではなく強さです。

ヨハネ5：30

*わたしは自分では何もできない。ただ、父から聞くままに裁く。わたしの裁きは正しい。わたしは自分の意志ではなく、わたしをお遣わしになった方の御心を行おうとするからである。」*

ヨハネ8：27-28

*彼らは、イエスが御父について話しておられることを悟らなかった。そこで、イエスは言*

われた。「あなたたちは、人の子を上げたときに初めて、『わたしはある』ということ、また、わたしが、自分勝手には何もせず、ただ、父に教えられたとおりに話していることが分かるだろう。

ルカ 22 : 43 - 44

すると、天使が天から現れて、イエスを力づけた。イエスは苦しみもだえ、いよいよ切に祈られた。汗が血の滴るように地面に落ちた。

天地を創造する力を持っている方に何か不可能なことがあると想像するのは難しいことです。ところが、この天地の創造主であるイエスが言われることは、イエスは天の父のすることだけを行なうのであるということです。天の父に対する御子の姿勢は絶対的な従属であると言えます。完璧な調和と結束です。だから「わたしと父とは一つである」(ヨハネ 10 : 30)とイエスは確信していたのです。従属や依存とは、多くの人には弱さと捉えられがちですが、実際には最高の強さです。頼らないほうが簡単なのです。他の人や神様に頼ることは自制心が必要です。ここにイエスの模範があります。1人の男性が完全に自分を捨て、愛する父に頼りました。どのようにイエスが神様に信頼し、その結果がどのようにイエスをより完全にしていっていったかを調べていきましょう。

1. ヨハネ 5 : 30 わたしは自分では何もできない——これは絶望した敗北者の言葉ですか。人生に疲れ果て、自信を失ってしまった人の言葉でしょうか。いいえ。これは神の御子の言葉です。始めも終わりもない永遠の神様の言葉です。この地を形づくるのに誰の許可も必要ない神様です。だからこそ矛盾がないのです。イエスは天の父によって力を引き出されたのです。イエスは神様の御力と知恵を学んでいたからこそ、多くのことを成し遂げられました。イエスがどれほど神様に信頼をしていたかを考えると、私達はどうかであるべきでしょうか。私達はイエスほど力もなく賢明でもありません。だから、私達に必要な全てのものが与えられるよう、より神様に信頼するべきです。

2. ヨハネ 8 : 27 - 28 イエスは天の父に教えられたとおりに話していると言いました。この従属関係はイエスが十字架に架けられているときに完全なものとなりました。

3. ルカ 22 : 43 - 44 このとき、イエスは前に向かう力がありませんでした。弟子達に「わたしは死ぬばかりに悲しい」と伝えました(マタイ 26 : 38)。神様の御心を成し遂げられなくなりそうな場面でした。しかし、神様は天使を送り、力付けました。何という父から子への愛、何という子から父への信頼なのでしょう。

イエスは神様との力強い関係を得るために、完全に神様に信頼しました。神様のミッションを成し遂げるのに必要な強さを得るため、天の父にフォーカスしました。神様に信頼した



イエスの人生の結果、それは私達の救いです。私達も人生を通して御心を成し遂げたいのなら、完全に神様を信頼しなければなりません。かたくなな独立心は罪へと導くだけです。

課題：あなたの人生の中で神様を信頼しにくいことは何か書き出してください。

## 6日目 イエスの完璧なる模倣

学びの柱：真似ることによってイエスの信仰は急速に成長しました。

聖句：ヨハネ5：19－21

そこで、イエスは彼らに言われた。「はっきり言うておく。子は、父のなさることを見なければ、自分からは何事もできない。父がなさることはなんでも、子もそのとおりにする。父は子を愛して、御自分のなさることをすべて子に示されるからである。また、これらのことよりも大きな業を子にお示しになって、あなたたちが驚くことになる。すなわち、父が死者を復活させて命をお与えになるように、子も与えたいと思う者に命を与える。

ヨハネ12：49

なぜなら、わたしは自分勝手に語ったのではなく、わたしをお遣わしになった父が、わたしの言うべきこと、語るべきことをお命じになったからである。

マタイ16：13－16

イエスは、フィリポ・カイサリア地方に行ったとき、弟子たちに、「人々は、人の子のことを何者だと言っているか」とお尋ねになった。弟子たちは言った。「『洗礼者ヨハネだ』と言う人も、『エリヤだ』と言う人もいます。ほかに、『エレミヤだ』とか、『預言者の一人だ』と言う人もいます。」イエスが言われた。「それでは、あなたがたはわたしを何者だと言うのか。」シモン・ペトロが、「あなたはメシア、生ける神の子です」と答えた。

全ての人は模倣を経験しています。子どもは他者の話し方、歩き方、食べ方、座り方、遊び方などを真似するので早く成長します。学校では習った知識を繰り返し復習することで身に着けます。模倣を通して新しいことを学びましょう！

私達はスポーツ選手や芸能人の言動やスタイルを真似することが多いでしょう。自分より素敵な人を真似ることは自然なことです。それなのに、どうして宗教となると恐れが生じるのでしょうか。私達より霊的に熟練している人を真似ることは危険なのでしょうか。多くの人は宗教を個人的なものと捉えていますが、それは間違いです！誰かを介さなければ神様を知ることが出来ません(ローマ10：14－15)。また、誰かが助けなければ誰も霊的に

成長することができません。イエスは見倣いました！ イエスは天の父の模範を見、また預言者からも倣いました。今日はイエスの模倣の習慣を学びましょう。

1. ヨハネ 5 : 19 – 21 イエスにも限界がありました。これはイエスの弱さでも過失でもありません。イエスは模倣の重要性を信じていました。イエスがどれほど革新的だったか誰もが知っていました。人々はイエスの教えを聞き、他の教師とは違うことも知っていました。人々はイエスの働きは神様から来るものだを知っていました(ヨハネ 3 : 1 – 3)。イエスは神様を模倣することにより、斬新な影響力を広めました。あなたは神様を真似していますか。神様のご性質を見たときに、すぐに真似ようとしていますか。神様を完璧なほど模倣しようとしていたイエスの姿勢を真似していますか。
2. ヨハネ 12 : 49 イエスの言葉は天の父からのものでした。しかし、イエスは神様の御言葉を受け取っただけではありません。どのように語るかも神様から学びました。これが私達の学ぶべき模倣の原則です。
3. マタイ 16 : 13 – 16 イエスは弟子たちに「人々は人の子を何者と言っているか。」と聞きました。人々はバプテスマのヨハネ、エリヤ、エレミヤ、または預言者の1人であると思っていました。イエスに、バプテスマのヨハネの激しさ、エリヤの大胆さ、エレミヤの憐れみが見られたからでしょう。イエスは聖句を通して預言者たちを見倣ったのです。イエスが模倣の原則を実行していたのですから、私達も真似ましょう。模倣は素早く持続的に変われる鍵であるということを忘れないでください。

成長の鍵は霊的な人を真似るという原則は、世の中には見られません。しかし、イエスがこの原則を信じていたことは明らかです。クリスチャンとして私達は、全ての面でイエスのようになることがゴールです。あなたの人生の中で変わりたいと思う点を書き出してください。変わるために誰を真似ればよいか名前を書き出してください。DP パートナーから真似ようとしている点も書き出し、それが上手くいっているかどうか周囲に聞いてみてください。

課題：ディサイプルスシップパートナーから真似たいと思う点を書き出してください。

## 7日目 全ての人の僕であるイエス

学びの柱：イエスは神様の御子であるもかかわらず、全ての人に仕えました。

マタイ 20 : 28

人の子が、仕えられるためではなく仕えるために、また、多くの人の身代金として自分の命を献げるために来たのと同じように。

ヨハネ 13 : 12-17

さて、イエスは、弟子たちの足を洗ってしまうと、上着を着て、再び席に着いて言われた。「わたしがあなたがたにしたことが分かるか。あなたがたは、わたしを『先生』とか『主』とか呼ぶ。そのように言うのは正しい。わたしはそうである。ところで、主であり、師であるわたしがあなたがたの足を洗ったのだから、あなたがたも互いに足を洗い合わなければならない。わたしがあなたがたにしたとおりに、あなたがたもするようにと、模範を示したのである。はっきり言うておく。僕は主人にまさらず、遣わされた者は遣わした者にまさりはしない。このことが分かり、そのとおりに実行するなら、幸いである。

ルカ 22 : 24-29

また、使徒たちの間に、自分たちのうちでだれがいちばん偉いだろうか、という議論も起こった。そこで、イエスは言われた。「異邦人の間では、王が民を支配し、民の上に権力を振るう者が守護者と呼ばれている。しかし、あなたがたはそれではいけない。あなたがたの中でいちばん偉い人は、いちばん若い者のようになり、上に立つ人は、仕える者のようにになりなさい。食事の席に着く人と給仕する者とは、どちらが偉いか。食事の席に着く人ではないか。しかし、わたしはあなたがたの中で、いわば給仕する者である。あなたがたは、わたしが種々の試練に遭ったとき、絶えずわたしと一緒に踏みとどまってくれた。だから、わたしの父がわたしに支配権をゆだねてくださったように、わたしもあなたがたにそれをゆだねる。

「僕」と呼ばれることは、価値が低いように聞こえる場合が多いでしょう。ほとんどの人は、仕えるより仕えてもらいたいと願います。もし、国王か奴隷になる選択肢があったら、私達は王となる選択肢を選ぶでしょう。イエスは、全ての人の奴隷としてこの世に生まれました。イエスは王宮で生まれても良かったのです。しかし、馬小屋で生まれました。彼のベッドは、藁を敷いた飼葉桶でした。彼は小さな村で育ちました。両親は貧しく、イエスは素晴らしい大学にも小学校にも行ったことはありませんでした。イエスの父親は大工で、彼も成長しながらこの職を手に着けました。イエスは最も謙虚でした。イエスの境遇からは、彼が神様の御子であり、天地の創造主であるとは想像できませんでした。そして、イエスは本来の姿を捨て、僕の身分となったのです(フィリピ 2 : 7)。それがイエスの降誕の理由でした。全ての人に仕えることです！ 創造主が被造物に仕えるのです！ 謙遜と愛の具現です！ 今日のレッスンを通し、イエスの仕える心を見ていきましょう。

マタイ 20 : 28 イエスはここで、この地上に来た彼の目的は人々に仕えるためであって、仕えられるためではないとはっきりと言います。彼は、自分の人生は自分に従う人々に仕えることだとわかっていました。私達は自分たちの目的がすべての人々の僕になることだとわかっていますか。あなたの人生の目的は、仕えることを見つけることですか。それとも、他の人に仕えてもらうのを待ちますか。知ってもらおうというニーズがあるなら、あなたは、す

ぐにそのニーズに応じたいと思いますか。それとも、他の誰かが申し出るのを待ちますか。イエスはどのようにするでしょうか。

ヨハネ 13 : 12 - 17 イエスは、弟子達に彼の目的について模範をもって示します。弟子達がイエスの足を洗うのを待つのではなく、イエスが弟子達の足を洗ったのです。イエスは、彼らが従うように手本となりました。イエスは、弟子達に仕えるように言ったのではなく、行ないをもって示したのです。

ルカ 22 : 24 - 29 弟子達は、自己中心的な野心の罪に苦闘していました。最も偉いのは誰かを知りたいと思いました。誰が、誰に仕えるのだろうか、と。しかし、イエスは一番偉い者は全ての人の僕だと言い、彼らの罪を打ち砕きました。あなたは自己中心的な野心に陥ったことはありませんか。誰が偉いのかを知りたいですか。それが自分ではないかと期待したりしませんか。人間の本質とイエスの目的とはあまりに正反対なのです。

子どものクラスで仕えることを頼まれたときのあなたの態度はどうでしょう。アッシャーや献金カウント、音響の手伝いを頼まれたときはどうでしょう。もし私達がイエスの心を本当に持っているならば、どんな奉仕でもしたいと思うでしょう。

今週、あなたは教会で何かの分野で仕えましたか。教会外ではどんなことで仕えましたか。私達に役割が与えられることを喜びましょう。

課題：あなたが今まで仕えられた以上に誰かに仕えることを書き出してください。

## 8日目 イエスと友人達

学びの柱：神様の御子であるイエスにも近い友人が必要でした。

ヨハネ 15 : 14 - 15

わたしの命じることを行うならば、あなたがたはわたしの友である。もはや、わたしはあなたがたを僕とは呼ばない。僕は主人が何をしているか知らないからである。わたしはあなたがたを友と呼ぶ。父から聞いたことをすべてあなたがたに知らせたからである。

ルカ 22 : 14 - 16

時刻になったので、イエスは食事の席に着かれたが、使徒たちも一緒だった。イエスは言われた。「苦しみを受ける前に、あなたがたと共にこの過越の食事をしたいと、わたしは切に願っていた。言うておくが、神の国で過越が成し遂げられるまで、わたしは決してこの過越の食事をとることはない。」

ヨハネ 11 : 3、5、36

姉妹たちはイエスのもとに人をやって、「主よ、あなたの愛しておられる者が病気なので  
す」と言わせた。イエスは、マルタとその姉妹とラザロを愛しておられた。  
ユダヤ人たちは、「御覧なさい、どんなにラザロを愛しておられたことか」と言った。

ルカ 19 : 1-10

イエスはエリコに入り、町を通っておられた。そこにザアカイという人がいた。この人は  
徴税人の頭で、金持ちであった。イエスがどんな人か見ようとしたが、背が低かったので、  
群衆に遮られて見るができなかった。それで、イエスを見るために、走って先回りし、  
いちじく桑の木に登った。そこを通り過ぎようとしておられたからである。イエスはその  
場所に来ると、上を見上げて言われた。「ザアカイ、急いで降りて来なさい。今日は、ぜ  
ひあなたの家に泊まりたい。」ザアカイは急いで降りて来て、喜んでイエスを迎えた。こ  
れを見た人たちは皆つぶやいた。「あの人は罪深い男のところに行って宿をとった。」し  
かし、ザアカイは立ち上がって、主に言った。「主よ、わたしは財産の半分を貧しい人々  
に施します。また、だれかから何かだまし取っていたら、それを四倍にして返します。」  
イエスは言われた。「今日、救いがこの家を訪れた。この人もアブラハムの子なのだから。  
人の子は、失われたものを捜して救うために来たのである。」

イエスはあまりに力強いので、人生における近しい友人など要らないのではないかと思う  
かもしれません。それは大きな誤解です。イエスは深い友情を必要としていました。ペテロ、  
ヤコブ、ヨハネ、ラザロ、マリア、マルタといった人々は、神様の御子の心の支えとなった  
近い友人達でした。個人的な深い友人をイエスが欲していたことを想像できますか。ただ近  
況をオシャベリするためにイエスが電話をくれること、ホームパーティーやピクニックにイ  
エスと一緒に出掛けること、発展する神の御国でイエスと共に働くことなどを想像できま  
すか。自分の友人が聖書を学ぶことになり、それをリードするイエスの姿も想像できま  
すか。今日はイエスと友人達の関係について見ていきましょう。そして、自分の人生に当てはめて  
みましょう。

1. ヨハネ 15 : 14-15 イエスは弟子たちを友人と見ていました。彼らは訓練され  
るべき弟子ではありましたが、ほとんどの場合、イエスは彼らを友人と見ていました。  
イエスは神様から教えられた全てを弟子達と共有しました。あなたは兄弟姉妹を友人と  
見ていますか。それともリーダーによって故意に置かれた人と見ていますか。あなたは  
全てのことを弟子達と共有しますか。
2. ルカ 22 : 14-16 イエスは、十字架に架かろうとしています。彼はそのことを  
知っています。死を目前にイエスが望んだのは、近しい友人達と共に時間を過ごすこと  
でした。それは、イエスが「あなたがたと共にこの過越の食事をしたいと切に願ってい  
た」と言われた通りです。友人達からケアされるべき感情的ニーズがあったときにです。  
あなたは、感情的になるときに誰に頼りたいと思いますか。

3. ヨハネ 11 : 3、5、36 イエスは弟子たちと近い関係を持っていただけでなく、他にラザロ、マリア、マルタとも近い友人でしたので、度々会いに行っていました。イエスは、彼らの家で食事をしたりしていました(ヨハネ 12 : 1～3・ルカ 10 : 38～42)。あなたには小グループ以外にも近い関係がありますか。
4. ルカ 19 : 1—10 イエスは、クリスチャンではない人々とも友人になりました。自分の人生に金銭持ちの人も貧しい人も受け入れることができました。ザアカイはあまりに興奮していたので、4倍もの額をすぐに返したいと思いました。ザアカイは、イエスが家に来てくれて嬉しかったことでしょう。このことを通して、イエスがザアカイと友人になりたいと望んでくれ、ザアカイの胸は躍ったことと思います。イエスはノンクリスチャンと友人になることを恐れませんでした。あなたはノンクリスチャンと友情を深めることに不安に感じることはありませんか。イエスはマタイにも同じことをしました(ルカ 5 : 27～32)。

友人関係は誰にとっても大切です。心のつながった友人がいると、人生は豊かになります。私達は、主を倣って常に友人関係を広げていくべきです。その過程において、あなたの感情的ニーズも満たされるでしょう。

課題：あなたが友達になりたいと思っているクリスチャン、またはノンクリスチャンを書き出してください。

## 9日目 感情を開示したイエス

学びの柱： イエスは自分の感情を否定しませんでした。また、それを神様に従わない理由には決してしませんでした。

ヨハネ 11 : 33—35

イエスは、彼女が泣き、一緒に来たユダヤ人たちも泣いているのを見て、心に憤りを覚え、興奮して、言われた。「どこに葬ったのか。」彼らは、「主よ、来て、御覧ください」と言った。イエスは涙を流された。

ヨハネ 13 : 21—27

イエスはこう話し終わると、心を騒がせ、断言された。「はっきり言っておく。あなたがたのうちの一人がわたしを裏切ろうとしている。」弟子たちは、だれについて言っておられるのか察しかねて、顔を見合わせた。

イエスのすぐ隣には、弟子たちの一人で、イエスの愛しておられた者が食事の席に着いていた。シモン・ペトロはこの弟子に、だれについて言っておられるのかと尋ねるように合

囚した。その弟子が、イエスの胸もとに寄りかかったまま、「主よ、それはだれのことですか」と言うと、イエスは、「わたしがパン切れを浸して与えるのがその人だ」と答えられた。それから、パン切れを浸して取り、イスカリオテのシモンの子ユダにお与えになった。ユダがパン切れを受け取ると、サタンが彼の中に入った。そこでイエスは、「しようとしていることを、今すぐ、しなさい」と彼に言われた。

マタイ 26 : 36-46

それから、イエスは弟子たちと一緒にゲツセマネという所に来て、「わたしが向こうへ行って祈っている間、ここに座っていなさい」と言われた。ペトロおよびゼベダイの子二人を伴われたが、そのとき、悲しみもだえ始められた。そして、彼らに言われた。「わたしは死ぬばかりに悲しい。ここを離れず、わたしと共に目を覚ましていなさい。少し進んで行って、うつ伏せになり、祈って言われた。「父よ、できることなら、この杯をわたしから過ぎ去らせてください。しかし、わたしの願いどおりではなく、御心のままに。」それから、弟子たちのところへ戻って御覧になると、彼らは眠っていたので、ペトロに言われた。「あなたがたはこのように、わずか一時もわたしと共に目を覚ましていられなかったのか。誘惑に陥らぬよう、目を覚まして祈っていなさい。心は燃えても、肉体は弱い。」更に、二度目に向こうへ行って祈られた。「父よ、わたしが飲まないかぎりこの杯が過ぎ去らないのでしたら、あなたの御心が行われますように。」再び戻って御覧になると、弟子たちは眠っていた。ひどく眠かったのである。そこで、彼らを離れ、また向こうへ行って、三度目も同じ言葉で祈られた。それから、弟子たちのところへ戻って来て言われた。「あなたがたはまだ眠っている。休んでいる。時が近づいた。人の子は罪人たちの手に引き渡される。立て、行こう。見よ、わたしを裏切る者が来た。」

悪い思いを抱いたり、悲しみにふさいでいたりするイエスの姿を想像することは難しいでしょう。イエスは人々の前では全ての否定的な思考や感情を抑え、いつも好印象を与えるよう振る舞っていたのでしょうか。それは、違います。彼は人間でした。イエスは人間として感情と戦わなければなりません。「罪を犯されなかったが、あらゆる点において、わたしたちと同様に試練に遭われたのです」(ヘブライ 4 : 15)。この聖句から、イエスが自分の感情を制御し克服していたことが分かります。イエスは人間として感情を自制することがどれほど難しいのか理解していたのです。これは大きな励ましです。また、イエスは何事もなかったようなふりをしていたのでもありません。イエスは正直でオープンでした。直面している不安や恐れをごまかしませんでした。身近な人々にそのような感情を分かち合いました。だからこそ、感情に敗北せず、克服することができたのです。今日は、イエスが自分の感情に対して非常にリアルであったことを知ってください。そして、神様への従順をくじくような感情とどのように戦ったのかを見ていきましょう。

1. ヨハネ 11 : 33-35 イエスは「心に憤りを覚え、興奮して…」いました。彼は痛みを感じない鋼鉄の物質ではなかったのです。イエスは、友人のマリアとマルタの悲しみ

に共感できる憐み深い人でした。彼の涙は本物です。イエスは人として感情を現わすことを恐れませんでした。あなたが愛する人を失なったとき、イエスが傍に来て涙を流している光景を想像してみてください。あなたは感情を出すことを恐れていませんか。あなたは人に感情移入できますか。あなたは誰にも分からない心の痛みを隠していませんか。

2.ヨハネ13：21-27 イエスが死ぬ数時間前の場面です。イエスはユダが自分を裏切ることを知っています。イエスは自分の知っていること、感じていることを全て伝えます。イエスは友人であるユダが金銭のことで自分を裏切ろうとしていることを知って、心が締め付けられたことでしょうか。そして、弟子たちにこのことをオープンに話しました。隠すことも無視することもしませんでした。イエスは分かち合いました。あなたは傷ついているときにどのように反応しますか。痛みがないようなふりをしますか。大丈夫であるかのように振る舞いますか。

3.マタイ26：36-46 イエスは、死ぬほど苦しいと友人達に言います。十字架の戦いが重くのしかかっています。彼は弟子たちに全く偽りがありません。弟子に助けてほしい、祈ってほしいと願います。しかし、弟子達は何も助けられませんでした。イエスは自分の感情を否定しませんでした。それを分かち合い、祈りました。そして、イエスは自分の命を神様の御心に委ねました。私達はクリスチャンとして直面している戦いに対してリアルにならなければなりません。戦いについてオープンになりましょう。そのことについて祈り、自分の命を神様の御心に委ねましょう。

イエスは、自分の感情に対してリアルでした。しかし、感情に負けて神様のご計画から逃げたのではなく、愛する人々とその感情を分かち合いました。神様の御心の戦いに挑もうとするならば、私達はイエスに学ばねばなりません。時々、私達は自分の感情を打ち消して心を閉ざし、そこから苦々しさや偽善を生じさせる機会を悪魔に与えてしまいます。このようなことは絶対にあってはなりません。いつもオープンになりましょう。

課題：あなたが友人にオープンにできない思いや感情を書き出してください。

## 10日目 イエス、ベストを尽くし卓越した人生

学びの柱：イエスは神様の栄光の反映として、いつも全てにおいてベストを尽くしました。

マルコ7：31-37

それからまた、イエスはティルスの方を去り、シドンを経てデカポリス地方を通り抜け、ガリラヤ湖へやって来られた。人々は耳が聞こえず舌の回らない人を連れて来て、その上に手を置いてくださるようにと願った。そこで、イエスはこの人だけを群衆の中から連れ



出し、指をその両耳に差し入れ、それから唾をつけてその舌に触れられた。そして、天を仰いで深く息をつき、その人に向かって、「エツファタ」と言われた。これは、「開け」という意味である。すると、たちまち耳が開き、舌のもつれが解け、はっきり話すことができるようになった。イエスは人々に、だれにもこのことを話してはいけない、と口止めをされた。しかし、イエスが口止めをされればされるほど、人々はかえってますます言い広めた。そして、すっかり驚いて言った。「この方のなさったことはすべて、すばらしい。耳の聞こえない人を聞こえるようにし、口の利けない人を話せるようにしてください。」

マタイ 9 : 33

悪霊が追い出されると、口の利けない人がものを言い始めたので、群衆は驚嘆し、「こんなことは、今までイスラエルで起こったためしがない」と言った。

ヘブライ 9 : 26-28

もしそうだとすれば、天地創造の時から度々苦しまねばならなかったはずです。ところが実際は、世の終わりにただ一度、御自身をいけにえとして献げて罪を取り去るために、現れてくださいました。また、人間にはただ一度死ぬことと、その後に裁きを受けることが定まっているように、キリストも、多くの人の罪を負うためにただ一度身を献げられた後、二度目には、罪を負うためではなく、御自分を待望している人たちに、救いをもたらすために現れてくださるのです。

人生を完璧に歩むことは難しいことです。夫／妻として、親として、社会人として、学生として、またクリスチャンとして常に正しく生きることは不可能に近いでしょう。失敗した経験があれば逃げたくなります。イエスにも私達と同じチャレンジがありました。私達と同じように肉体の弱さと戦いました。しかし、彼は打ち勝ちました。今日のレッスンでは、神様から与えられた課題に対するイエスの態度と、それをどのように成し遂げたのかを見ていきしょう。イエスがどのようにして卓越したレベルを維持できたのかを調べてみましょう。

1. マルコ 7 : 31-37 人々はイエスがなさったことに驚きました。人々は、物事を成し遂げるイエスの卓越したレベルに驚きました。あなたは周囲から「君のやることは卓越しているね」と言われたことはありますか。それは何と難しいことでしょう。しかし、イエスは実際に完璧なのです。私達は、ベストを尽くすよりも低いレベルに留まって言い訳をすることを自分に許してはいけません。鍛錬することでしか困難や失敗を乗り越えられませんか、完璧にできないからと言って諦めるのは、弟子の生き方の定義に反しています。ですから、私達は鍛錬され続けるのです。

2. マタイ 9 : 33 群衆はイエスの多様な能力に驚きます。イエスはあらゆることを十分にできる力を証明しました。クリスチャンとして、私達はいつも自分の能力を成長させようとしなければなりません。自分が成長するために新しい試みをするべきです。たいてい私達

は自分の不得意な分野では新しいことを試そうとしません。失敗を恐れて一步踏み出すことを恐れていませんか。そのことについてお祈りし、挑戦してみましょう。

3.ヘブライ9：26-28 イエスは、神様から与えられたご計画を成し遂げることができました。イエスは正しく遂行しました。その生き方は私達に対する最高の犠牲とも言えるでしょう。イエスは神様の御心を成し遂げよう、しかも速やかに正確に成し遂げようとしたのです。あなたの態度はどうでしょうか。あなたはやるべきことを先延ばしにしていますか。やるべきことに取り組む際に、卓越を目指していますか。いつかやり直すことになるかもしれないと自覚しながら、「とりあえずやればいいや」と、いい加減な仕事をしていませんか。イエスならどうするでしょうか。

イエスは驚くほど非常に高い基準を持った模範です。彼はいつも神様のために最高の自分を捧げたいと願っていました。全てのことが神様のためであるなら、私達はいつも100%の力を捧げるべきではないでしょうか。自分の能力不足を理由に、努力を惜しむことのないようにしましょう。自分が不完全であることは人間の現実です。しかし、だからと言って努力を怠る言い訳はそこにはありません。

課題：あなたが人生で卓越するために、より努力が必要な部分を書き出してください。

## 11日目 イエスは喜びと感謝にあふれる人

学びの柱：イエスは常にプレッシャーの下にいましたが、それが喜びや感謝の妨げにはなりませんでした。

ヨハネ17：13

しかし、今、わたしはみもとに参ります。世にいる間に、これらのことを語るのは、わたしの喜びが彼らの内に満ちあふれるようになるためです。

ヨハネ11：41-44

人々が石を取りのけると、イエスは天を仰いで言われた。「父よ、わたしの願いを聞き入れてくださって感謝します。わたしの願いをいつも聞いてくださることを、わたしは知っています。しかし、わたしがこう言うのは、周りにいる群衆のためです。あなたがわたしをお遣わしになったことを、彼らに信じさせるためです。」こう言ってから、「ラザロ、出て来なさい」と大声で叫ばれた。すると、死んでいた人が、手と足を布で巻かれたまま出て来た。顔は覆いで包まれていた。イエスは人々に、「ほどいてやって、行かせなさい」と言われた。

ルカ 10 : 17-24

七十二人は喜んで帰って来て、こう言った。「主よ、お名前を使うと、悪霊さえもわたしたちに屈服します。」イエスは言われた。「わたしは、サタンが稲妻のように天から落ちるのを見ていた。蛇やさそりを踏みつけ、敵のあらゆる力に打ち勝つ権威を、わたしはあなたがたに授けた。だから、あなたがたに害を加えるものは何一つない。しかし、悪霊があなたがたに服従するからといって、喜んではいない。むしろ、あなたがたの名が天に書き記されていることを喜びなさい。」そのとき、イエスは聖霊によって喜びにあふれて言われた。「天地の主である父よ、あなたをほめたたえます。これらのことを知恵ある者や賢い者には隠して、幼子のような者にお示しになりました。そうです、父よ、これは御心に適うことでした。すべてのことは、父からわたしに任せられています。父のほかに、子がどういう者であるかを知る者はなく、父がどういう方であるかを知る者は、子と、子が示そうと思う者のほかには、だれもいません。」それから、イエスは弟子たちの方を振り向いて、彼らだけに言われた。「あなたがたのしているものを見る目は幸いだ。言っておくが、多くの預言者や王たちは、あなたがたが見ているものを見たかったが、見る事ができず、あなたがたが聞いているものを聞きたかったが、聞けなかったのである。」

イエスの毎日はストレスが多いものでしたが、それによって悲観的にはなりません。宗教の世界では、イエス像は重荷を負った、誤解された、暗い人として描かれています。これは事実とはほど遠いものです。イエスは逆境の中で神様の御心を成し遂げようとしていました。彼の前には、成し遂げるべき困難な重荷がありました。それを成就できた人は、それまで誰もいませんでした。しかしながら、彼は苦悩して陰気になったり、感謝を忘れて自己中心になったりしませんでした。感謝は、私達が味わう喜びに直接的につながっています。人生が感謝で満たされているとき、私達の心は喜びでいっぱいになるものです。このレッスンでは、イエスがいつもどのように喜びを持ち続けることができたのかを見ていきましょう。

1. ヨハネ 17 : 13 イエスは喜びに満たされていました。弟子達に同じ喜びを体験してほしいと思いました。弟子達が喜びに満たされることは、イエスの目標の一つでした。彼の祈りは、神様が弟子達を喜びで満たしてくださるようということでした。あなたは喜びに満たされていますか。イエスは、十字架刑で死ぬ数時間前にこのように祈りました。イエスは置かれた境遇によって喜びを左右されることがありませんでした。あなたは物事が上手くいっているときだけハッピーになりますか。他の人々と分かち合える喜びを持っていますか。他の人々を満たせるほどの喜びを持っていますか。

2. ヨハネ 11 : 41-44 イエスは、他の人々が悲しみにくれているときでも喜びと感謝に満たされています。まだ起こっていないことについても神様に感謝を表しています。神様が祈りを叶えてくださる前に、イエスは感謝を表しました。このことから、信仰と感謝が密接に結びついていることが分かります。あなたは、神様が自分の祈りを聞いてくださるといふ信仰を持っていますか。あなたの祈りが実現する前に、神様が祈り

を聞いてくださることを感謝できますか。他の人々が悲しんでいるとき、あなたは喜びと感謝によって周囲に影響をもたらすことができますか。

3. ルカ 10 : 17-24 イエスは前向きでした。それが、イエスが感謝と喜びに満たされていた理由の一つです。この状況において落胆することは当然に思えます。イエスが誰であるかということや、イエスが来た目的を理解している人はほとんどいなかったからです。しかし、イエスはこの状況を全く異なる視点から見えています。彼は心の純粋な人だけが真実を見分けることができるということを神様に感謝します。イエスは、水が半分ほど入っているコップを見て「半分しか入っていない」と見る人ではないのです。悲観主義は不信仰、感謝のなさ、不幸に通じます。あなたは、あらゆる状況で良いことに目を向けることができますか。悲観して喜びや感謝から遠のきますか。

イエスは幸福感で満たされ、感謝にあふれた人でした。私達もそうあるべきです。あなたは、そうなるために何を変わればよいでしょうか。喜びは、神様が私達にしてくださった全てのことへの感謝から生じます。それらを書き出してください。あなたの祈りを感謝で満たしてください。祈りは、私達が本当に感謝しているかどうか見極める方法の一つです。イエスの祈りは感謝で満たされていました。多くの場合、私達の祈りは要求ばかりです。イエスが私達に注いでくださった喜びで心と祈りを満たしましょう。



課題：人生において感謝していることを 10 項目  
書き出してください。

## 12日目 イエスと金銭

学びの柱：裕福になったとしてもイエスはこの地上に来た目的を常に覚えていたでしょう。

マタイ 6 : 19-24

「あなたがたは地上に富を積んではならない。そこでは、虫が食ったり、さび付いたりするし、また、盗人が忍び込んで盗み出したりする。富は、天に積みなさい。そこでは、虫が食うことも、さび付くこともなく、また、盗人が忍び込むことも盗み出すこともない。あなたの富のあるところに、あなたの心もあるのだ。」 「体のともし火は目である。目が澄んでいれば、あなたの全身が明るいが、濁っていれば、全身が暗い。だから、あなたの中にある光が消えれば、その暗さはどれほどであろう。」 「だれも、二人の主人に仕えることはできない。一方を憎んで他方を愛するか、一方に親しんで他方を軽んじるか、どちらかである。あなたがたは、神と富とに仕えることはできない。」

ルカ 16 : 13-15

どんな召し使いも二人の主人に仕えることはできない。一方を憎んで他方を愛するか、一方に親しんで他方を軽んじるか、どちらかである。あなたがたは神と富とに仕えることはできない。」金に執着するファリサイ派の人々が、この一部始終を聞いて、イエスをあざ笑った。そこで、イエスは言われた。「あなたたちは人に自分の正しさを見せびらかすが、神はあなたたちの心をご存じである。人に尊ばれるものは、神には忌み嫌われるものだ。

ルカ 8 : 1-3

すぐその後、イエスは神の国を宣べ伝え、その福音を告げ知らせながら、町や村を巡って旅を続けられた。十二人も一緒だった。悪霊を追い出して病気をいやしていただいた何人かの婦人たち、すなわち、七つの悪霊を追い出していただいたマグダラの女と呼ばれるマリア、ヘロデの家令クザの妻ヨハナ、それにスサンナ、そのほか多くの婦人たちも一緒であった。彼女たちは、自分の持ち物を出し合って、一行に奉仕していた。

マタイ 22 : 15-22

それから、ファリサイ派の人々は出て行って、どのようにしてイエスの言葉じりをとらえて、罠にかけようかと相談した。そして、その弟子たちをヘロデ派の人々と一緒にイエスのところに遣わして尋ねさせた。「先生、わたしたちは、あなたが真実な方で、真理に基づいて神の道を教え、だれをもはばからない方であることを知っています。人々を分け隔てなさらないからです。ところで、どうお思いでしょうか、お教えてください。皇帝に税金を納めるのは、律法に適っているでしょうか、適っていないでしょうか。」イエスは彼らの悪意に気づいて言われた。「偽善者たち、なぜ、わたしを試そうとするのか。税金に納める金銭を見せなさい。」彼らがデナリオン銀貨を持って来ると、イエスは、「これは、だれの肖像と銘か」と言われた。彼らは、「皇帝のものです」と言った。すると、イエスは言われた。「では、皇帝のものは皇帝に、神のものは神に返しなさい。」彼らはこれを聞いて驚き、イエスをその場に残して立ち去った。

ヨハネ 13 : 29

ある者は、ユダが金入れを預かっていたので、「祭りに必要な物を買いなさい」とか、貧しい人に何か施すようにと、イエスが言われたのだと思っていた。

「あなたがたは、神と富とに仕えることはできない」(マタイ 6 : 24 b)。イエスはハッキリと言います。あいまいではなく黒か白かどちらかなのです。イエスは、神様と関係において最も大きな障害となるのは金銭を愛することだと知っていました。しかし、イエスもこれらの誘惑に直面しなければなりませんでした。彼は貧しい家庭で育ちました。イエスは神様の働きを始めることによって莫大な利益を生み出すこともできたでしょう。人々はイエスを王様にしようと思つたのですから(ヨハネ 6 : 14~15)。イエスは、自分の生活を楽

にするために才能や賜物を使うこともできました。しかし、そうしませんでした。イエスは神と富に仕えることはしませんでした。今日は、イエスがどのように金銭を取り扱ったのか、またイエスの金銭に対する態度を見ていきましょう。

- 1, ルカ 16 : 13-15 イエスは、金銭を愛することは神様には忌み嫌われることだと信じていました。彼は、金儲けのために自分自身を売り渡してきた多くの人々を見してきました。その人々とは、イエスの時代の信仰深いと言われる指導者たちでした！神様が望まれる指導者像と全く正反対です！イエスは、私達が生きるために金銭が必要だと知っています。しかし、イエスは何よりもまず神様を愛してほしいのです！
- 2, ルカ 8 : 1-3 数人の女性達による奉仕によって、イエスとその弟子たちは生活できました。これがイエスのやり方でした。イエスは、簡単に大量の魚を捕るという方法で金銭を作り出すことができました(cf. マタイ 17 : 24-27)。しかし、イエスが食べていくことができたのは、影響を与えた人々からの奉仕によってでした。あなたは自分の経済状況についてどれほどの信仰がありますか。あなたの頭の中は十分な金銭がないという心配でいっぱいになっていますか。神様があなたのニーズが何であるかをご存じで、神様がそれらを満たしてくださると信じていますか。
- 3, マタイ 22 : 15-22 イエスは税金を支払いました！彼は貧しくても法律に従いました(cf. マタイ 17 : 24-27)。イエスは、市民としての義務を逃れるために神様の御子としての力を使うことはしませんでした。「皇帝のものは皇帝に、神のものは神に返すこと」と述べました。あなたは期日を守って税金を支払っていますか。借金があれば返済していますか。経済的に果たすべき責任を光栄に思いますか。神様のものは神様に返していますか。
- 4, ヨハネ 13 : 29 イエス自身も貧しかったのですが、貧しい人に金銭を与えました。ここからも学べます。自分より貧しい人を前にして、自分も貧しいから他の人に与える余裕はないと考えてしまうのでしょうか。それはイエスのような心ではありません。

金銭はとても危険で霊的な敵となり得ます。イエスはそれを知っていました。だから、彼は金銭を自分のために蓄えなかったのです。彼の財産は着ていた衣類だけでしたし、その衣さえも兵士達に取られてしまいました。イエスは、肉体的にはみすぼらしく死にましたが、霊的には豊かでした。イエスは愛によって献げる点で驚くべき模範を示されました。

課題：神様に奉仕する際に金銭が影響を及ぼしている点を書き出してください。

### 13日目 模範的なディサイプラー ① 土台

学びの柱：イエスは完全な弟子であったので、他の人をディサイルする方法を私達に教えることができました。

マタイ 14 : 15 - 16

夕暮れになったので、弟子たちがイエスのそばに来て言った。「ここは人里離れた所で、もう時間もたちました。群衆を解散させてください。そうすれば、自分で村へ食べ物を買っていくでしょう。」イエスは言われた。「行かせることはない。あなたがたが彼らに食べる物を与えなさい。」

マルコ 10 : 32

一行がエルサレムへ上って行く途中、イエスは先頭に立って進んで行かれた。それを見て、弟子たちは驚き、従う者たちは恐れた。イエスは再び十二人を呼び寄せて、自分の身に起ころうとしていることを話し始められた。

マルコ 1 : 16 - 18

イエスは、ガリラヤ湖のほとりを歩いておられたとき、シモンとシモンの兄弟アンデレが湖で網を打っているのを御覧になった。彼らは漁師だった。イエスは、「わたしについて来なさい。人間をとる漁師にしよう」と言われた。二人はすぐに網を捨てて従った。

ヨハネ 17 : 6

世から選び出してわたしに与えてくださった人々に、わたしは御名を現しました。彼らはあなたのものでしたが、あなたはわたしに与えてくださいました。彼らは、御言葉を守りました。

ヨハネ 15 : 15

もはや、わたしはあなたがたを僕とは呼ばない。僕は主人が何をしているか知らないからである。わたしはあなたがたを友と呼ぶ。父から聞いたことをすべてあなたがたに知らせたからである。

神様にとってイエスは最高の弟子でした。イエスは神様に完璧に従うことのできた唯一の弟子でした。ですから、他の人をディサイルしようとする時、イエスは私達にとって完璧な模範を示せるのです。今日はイエスのディサイルシップの基礎を学びます。彼には人々を弟子とするための基準がありました。私達もこの基準を理解しなくてはなりません。

1. マタイ 14 : 15 - 16 イエスはいつも聖句を引用して語られました。彼は聖書を弟子訓練の基礎としました。当時は旧約聖書のみであり、そこから教えられました。
2. マルコ 10 : 32 イエスはいつも先頭に立たれました。自分がやらないことを弟

子たちに命じることはありませんでした。イエスは自分の模範を通して弟子達をインスパイアされました。イエスの模範は人々が畏れるほど感動的でした。あなたは弟子達の先頭に立っていますか。あなたは自分が苦手なことを他の人にやらせていませんか。あなたは弟子に与えたチャレンジを達成できるように助けていますか(cf. マタイ 23:4)。

3. マルコ 1:16-18 イエスには弟子に対する期待がありました。人を捕る漁師になって欲しかったのです。イエスは単に徒党を組むのでもなく、楽しい体験を共有するのでもなく、良い友情関係を築くために弟子達を招いたのでもありません。あなたが弟子に見る期待は何でしょうか。この期待についてよく話し、共によく祈るでしょうか。
4. ヨハネ 17:6 イエスの弟子達へのゴールは神様を現わすということでした。そうすることで霊的な成長に導かれます。この動機が最も早く人を変えます。あなたには神様を現わすというゴールがありますか。どのように現わしますか。
5. ヨハネ 15:15 イエス自身が素晴らしい弟子でした。イエスは父なる神様を真似ていたので、弟子にも真似ることについて教えることができました。弟子達に自分を真似るよう恐れずに言えました。あなたはディサイプルしてくれる人をよく真似ていますか。あなたがディサイプルしている人はあなたをよく真似ていますか。もしそうでないなら、問題はあなた自身がよい弟子となっていないことかもしれません。

イエスは弟子達を訓練する土台を自分の内に築いていました。弟子達がしっかりと訓練されるために必要なことでした。あなたはイエスと同じ土台を築いていますか。もし違うなら、なぜでしょう。あなたは人を訓練するために聖書を使いますか。自分から模範を示しますか。ディサイプリング関係の目的を知っていますか。あなたは神を現わしていますか。あなた自身がよい弟子でしょうか。これらはイエスの基準でした。そして、私達もそうあるべきです。

課題：自分の弟子としての人生にこの基準を活かして行動する計画を立てましょう。

## 14日目 模範的なディサイプラー ② 関係

学びの柱：イエスは弟子たちを弟子として見る前に友人として見ていた。

テキスト：ヨハネ 13:1-5

さて、**逾越祭の前**のことである。イエスは、この世から父のもとへ移る御自分の時が来たことを悟り、世にいる弟子たちを愛して、この上なく愛し抜かれた。夕食のときであった。既に悪魔は、イスカリオテのシモンの子ユダに、イエスを裏切る考えを抱かせていた。イエスは、父がすべてを御自分の手にゆだねられたこと、また、御自分が神のもとから来て、



神のもとに帰ろうとしていることを悟り、食事の席から立ち上がって上着を脱ぎ、手ぬぐいを取って腰にまとわれた。それから、たらいに水をくんで弟子たちの足を洗い、腰にまとった手ぬぐいでふき始められた。

ヨハネ 15 : 15

もはや、わたしはあなたがたを僕とは呼ばない。僕は主人が何をしているか知らないからである。わたしはあなたがたを友と呼ぶ。父から聞いたことをすべてあなたがたに知らせたからである。

マルコ 3 : 13 - 15

イエスが山に登って、これと思う人々を呼び寄せられると、彼らはそばに集まって来た。そこで、十二人を任命し、使徒と名付けられた。彼らを自分のそばに置くため、また、派遣して宣教させ、悪霊を追い出す権能を持たせるためであった。

マタイ 5 : 1 - 2

イエスはこの群衆を見て、山に登られた。腰を下ろされると、弟子たちが近くに寄って来た。そこで、イエスは口を開き、教えられた。

ヨハネ 17 : 6 - 19

世から選び出してわたしに与えてくださった人々に、わたしは御名を現しました。彼らはあなたのものでしたが、あなたはわたしに与えてくださいました。彼らは、御言葉を守りました。わたしに与えてくださったものはみな、あなたからのものであることを、今、彼らは知っています。なぜなら、わたしはあなたから受けた言葉を彼らに伝え、彼らはそれを受け入れて、わたしがみもとから出て来たことを本当に知り、あなたがわたしをお遣わしになったことを信じたからです。彼らのためにお願いします。世のためではなく、わたしに与えてくださった人々のためにお願いします。彼らはあなたのもものだからです。わたしのものはすべてあなたのも、あなたのもはわたしのものです。わたしは彼らによって栄光を受けました。わたしは、もはや世にはいません。彼らは世に残りますが、わたしはみもとに参ります。聖なる父よ、わたしに与えてくださった御名によって彼らを守ってください。わたしたちのように、彼らも一つとなるためです。

わたしは彼らと一緒にいる間、あなたが与えてくださった御名によって彼らを守りました。わたしが保護したので、滅びの子のほかは、だれも滅びませんでした。聖書が実現するためです。

しかし、今、わたしはみもとに参ります。世にいる間に、これらのことを語るのは、わたしの喜びが彼らの内に満ちあふれるようになるためです。わたしは彼らに御言葉を伝えましたが、世は彼らを憎みました。わたしが世に属していないように、彼らも世に属していないからです。わたしがお願いするのは、彼らを世から取り去ることではなく、悪い者から守ってくださることです。わたしが世に属していないように、彼らも世に属していない

のです。真理によって、彼らを聖なる者としてください。あなたの御言葉は真理です。わたしを世にお遣わしになったように、わたしも彼らを世に遣わしました。彼らのために、わたしは自分自身をささげます。彼らも、真理によってささげられた者となるためです。

イエスは使命に熱心に生きた人と言えるでしょう。そうであるなら、イエスは人々と関係を築く余裕がなかったと考えられます。しかし、それは間違いです。イエスは、ディサイプルする人とされる人の友情は双方にとって価値があると知っていました。

1. ヨハネ 13 : 1 – 5 イエスはディサイプルしている弟子を愛していました。イエスが弟子達に単に伝道やミニストリー運営を教えたのではなく、心を与えたのです。これはとても重要です。イエスは様々に愛を表現されました。弟子達に仕え、教え、信じ、ビジョンを持ち、そしてときには叱りました。あなたの弟子はあなたからの愛を感じていますか。あなたがもっと愛を表現するためにどうしたらよいか書いてみてください。
2. ヨハネ 15 : 15 イエスは弟子達を友人として見ていました。厳しく命じるよりも、弟子達が友情によって動機づけられると分かっていたのです。のちに弟子達は自分の人生を神様のために捧げましたが、それはイエスとの友情を覚えていたからです。イエスからテクニックを教えられたからではなかったのです。あなたは弟子と親しい友人と言えますか。そうでないなら、なぜですか。
3. マルコ 3 : 13 – 15 イエスは弟子達と時間を過ごされました。それはイエスにとって影響を与える最善の方法でした。彼らはイエスの人生を見、イエスは彼らの人生を見ました。互いに過ごす時間に代わるものではありません。あなたはディサイプルシップタイムを決めて過ごしていますか。決めた時間以外にも過ごしていますか。
4. マタイ 5 : 1 – 2 イエスは弟子達に教えました。弟子として聖書の学びが常にあることは自然です。イエスは聖書の学びによって弟子達が成長し、サタンの計画に立ち向かうことができると知っていました。あなたはディサイプルシップタイムに聖書を学んでいますか。
5. ヨハネ 17 : 6 – 19 イエスは弟子達のために祈りました。神様の御前で友人の名前を挙げて祈ることほど関係を良くする方法が他にあるでしょうか。あなたは毎日、弟子達のために祈っていますか。

ディサイプリング関係が失敗するのは、それが友情の上に建てられていないからです。イエスは神様の教会を建てることを弟子たちに託しました。弟子達が成功するためには、宗教的な訓練以上のことが必要でした。友情が不可欠だったのです。イエスと弟子達の友情を真似ることで初めてその大切さを実感できるでしょう。

課題：あなたの弟子とより良い関係を築くための計画を立てなさい。

### 15日目 模範的なディサイプラー ③ 訓練

学びの柱：昇天した後も、次の世代へ十字架のメッセージが宣べ伝え続けられるように、イエスは弟子達を訓練する必要性を理解していました。

ルカ6：12-14

そのころ、イエスは祈るために山に行き、神に祈って夜を明かされた。朝になると弟子たちを呼び集め、その中から十二人を選んで使徒と名付けられた。それは、イエスがペトロと名付けられたシモン、その兄弟アンデレ、そして、ヤコブ、ヨハネ、フィリポ、バルトロマイ、

マルコ3：13-19

イエスが山に登って、これと思う人々を呼び寄せられると、彼らはそばに集まって来た。そこで、十二人を任命し、使徒と名付けられた。彼らを自分のそばに置くため、また、派遣して宣教させ、悪霊を追い出す権能を持たせるためであった。こうして十二人を任命された。シモンにはペトロという名を付けられた。ゼベダイの子ヤコブとヤコブの兄弟ヨハネ、この二人にはボアネルゲス、すなわち、「雷の子ら」という名を付けられた。アンデレ、フィリポ、バルトロマイ、マタイ、トマス、アルファイの子ヤコブ、タダイ、熱心党のシモン、それに、イスカリオテのユダ。このユダがイエスを裏切ったのである。

マタイ17：1-13

六日の後、イエスは、ペトロ、それにヤコブとその兄弟ヨハネだけを連れて、高い山に登られた。イエスの姿が彼らの目の前で変わり、顔は太陽のように輝き、服は光のように白くなった。見ると、モーセとエリヤが現れ、イエスと語り合っていた。ペトロが口をはさんでイエスに言った。「主よ、わたしたちがここにいるのは、素晴らしいことです。お望みでしたら、わたしがここに仮小屋を三つ建てましょう。一つはあなたのため、一つはモーセのため、もう一つはエリヤのためです。」ペトロがこう話しているうちに、光り輝く雲が彼らを覆った。すると、「これはわたしの愛する子、わたしの心に適う者。これに聞け」という声が雲の中から聞こえた。弟子たちはこれを聞いてひれ伏し、非常に恐れた。イエスは近づき、彼らに手を触れて言われた。「起きなさい。恐れることはない。」彼らが顔を上げて見ると、イエスのほかにはだれもいなかった。一同が山を下りるとき、イエスは、「人の子が死者の中から復活するまで、今見たことをだれにも話してはならない」と弟子たちに命じられた。彼らはイエスに、「なぜ、律法学者は、まずエリヤが来るはずだと言っているのでしょうか」と尋ねた。イエスはお答えになった。「確かにエリヤが来

て、すべてを元どおりにする。言うておくが、エリヤは既に来たのだ。人々は彼を認めず、好きなようにあしらったのである。人の子も、そのように人々から苦しめられることになる。」そのとき、弟子たちは、イエスが洗礼者ヨハネのことを言われたのだと悟った。

マタイ 16:13 - 20

イエスは、フィリポ・カイサリア地方に行ったとき、弟子たちに、「人々は、人の子のことを何者だと言っているか」とお尋ねになった。弟子たちは言った。「『洗礼者ヨハネだ』と言う人も、『エリヤだ』と言う人もいます。ほかに、『エレミヤだ』とか、『預言者の一人だ』と言う人もいます。」

イエスが言われた。「それでは、あなたがたはわたしを何者だと言うのか。」シモン・ペトロが、「あなたはメシア、生ける神の子です」と答えた。すると、イエスはお答えになった。「シモン・バルヨナ、あなたは幸いだ。あなたにこのことを現したのは、人間ではなく、わたしの天の父なのだ。わたしも言うておく。あなたはペトロ。わたしはこの岩の上にわたしの教会を建てる。陰府の力もこれに対抗できない。わたしはあなたに天の国の鍵を授ける。あなたが地上でつなぐことは、天上でもつながれる。あなたが地上で解くことは、天上でも解かれる。」それから、イエスは、御自分がメシアであることをだれにも話さないように、と弟子たちに命じられた。

マタイ 16:21 - 23

このときから、イエスは、御自分が必ずエルサレムに行って、長老、祭司長、律法学者たちから多くの苦しみを受けて殺され、三日目に復活することになっている、と弟子たちに打ち明け始められた。すると、ペトロはイエスをわきへお連れして、いさめ始めた。「主よ、とんでもないことです。そんなことがあってはなりません。」イエスは振り向いてペトロに言われた。「サタン、引き下がれ。あなたはわたしの邪魔をする者。神のことを思わず、人間のことを思っている。」

マルコ 6:30

さて、使徒たちはイエスのところに集まって来て、自分たちが行ったことや教えたことを残らず報告した。

訓練！訓練！訓練！これがイエスのマインドセットでした。彼の役割は、十字架上で死んで私達の罪を贖うことでしたが、これが人々に伝わらないなら、その犠牲は無駄になってしまいます。ですから、イエスは後の時代までも弟子達を準備しなければならないと知っていました。弟子達が最も重要な役割、神様のスポークスマンとして準備されるために約3年の年月が掛かりました。今日は、イエスがどのように弟子達を訓練したのかを見ていきます。イエスは師であり、その弟子達は師の目的である当時の世界伝道を達成したのです。

1. ルカ 6:12 - 14 イエスは誰を訓練すればよいのか正しい目を持っていました。12使徒を選ぶために一晩中祈りました。少数の弟子への影響を優先したのです。少数の

弟子達が更に他の人々に影響を与えるために。自分で弟子を選んだのではないとしても、あなたには自分の弟子にフォーカスし訓練する決意があるでしょうか。

2. マルコ 3 : 13 - 19 イエスは弟子達を選んだ後、ハッキリとディサイプリング関係の目的を示しました。イエスはこの世界を伝道するために訓練したかったのです。それを弟子達に明示しました。あなたの弟子はディサイプリング関係の目的を知っていますか。あなたはそれをハッキリと示しましたか。
3. マタイ 17 : 1 - 13 イエスは弟子達が更なる霊的な高みへと成長するために常に刺激を与えていました。ペテロはこの出来事をずっと覚えていて、後に手紙に書きました(Ⅱペテロ 1 : 16 - 18)。あなたは弟子をインスパイアしていますか。
4. マタイ 16 : 13 - 20 イエスはいつも弟子達を励ます方法を探していました。弟子達は優等生ではありませんでしたが、イエスは彼らのどんな小さな成功も励ましたかったのです。これは将来への自信を築きました。あなたは弟子を励ましていますか。彼らが自信を持てるよう考えていますか(ヘブライ 10 : 24)。
5. マタイ 16 : 21 - 23 この箇所ではイエスがペテロをたしなめます。これは弟子として必要な訓練で、深い義の原則について理解するために必要でした。私達は叱られること、叱ることを恐れます。私達は叱ることに対して世の中の的に考えがちです。しかし、イエスは叱責によって彼らが見えていなかった真理に対して目が開かれるようにされました。あなたは誰かに叱られると悪い態度を持ちますか。それとも自分に必要な訓練だと思えますか。あなたを叱る人はあなたを嫌っていると思えますか。
6. マルコ 6 : 30 イエスは弟子達に課題を与え、報告を求めました。そして彼らの過ちを正しました。イエスは弟子に説明責任を求めました。説明責任とは、イエスが能力や技術を洗練するために行なったことの一つです。あなたは自分の人生での説明責任を求められると自己防衛的になりはしませんか。また、相手に説明責任を求めることをためらってはいませんか。自分や弟子の人生に訓練すべき部分が見えたときに落胆する必要はありません。訓練とは私達と弟子達の双方の人生においてずっと続くプロセスです！

課題：弟子を訓練するにあたり、あなたが変わりたいことを書いてください。

16日目 神様に栄光を帰す弟子



学びの柱：弟子の人生の目的は神に栄光を帰すことです。

エフェソ 1：3-6

わたしたちの主イエス・キリストの父である神は、ほめたたえられますように。神は、わたしたちをキリストにおいて、天のあらゆる霊的な祝福で満たしてくださいました。天地創造の前に、神はわたしたちを愛して、御自分の前で聖なる者、汚れのない者にしようと、キリストにおいてお選びになりました。イエス・キリストによって神の子にしようと、御心のままに前もってお定めになったのです。神がその愛する御子によって与えてくださった輝かしい恵みを、わたしたちがたたえるためです。

使徒 2：42-47

彼らは、使徒の教え、相互の交わり、パンを裂くこと、祈ることに熱心であった。全ての人に恐れが生じた。使徒たちによって多くの不思議な業とするしが行われていたのである。信者たちは皆一つになって、全ての物を共有にし、財産や持ち物を売り、おのこの必要に応じて、皆がそれを分け合った。そして、毎日ひたすら心一つにして神殿に参り、家ごとに集まってパンを裂き、喜びと真心をもって一緒に食事をし、神を賛美していたので、民衆全体から好意を寄せられた。こうして、主は救われる人々を日々仲間に加え一つにされたのである。

I ペテロ 4：11

語る者は、神の言葉を語るにふさわしく語りなさい。奉仕をする人は、神がお与えになった力に応じて奉仕しなさい。それは、全てのことにおいて、イエス・キリストを通して、神が栄光をお受けになるためです。栄光と力とが、世々限りなく神にありますように、アーメン。

ヨハネ 21：18-19

はっきり言うておく。あなたは、若いときは、自分で帯を締めて、行きたいところへ行っていた。しかし、年をとると、両手を伸ばして、他の人に帯を締められ、行きたくないところへ連れて行かれる。」ペトロがどのような死に方で、神の栄光を現すようになるかを示そうとして、イエスはこう言われたのである。このように話してから、ペトロに、「わたしに従いなさい」と言われた。

神様があなたを子どもとして選んだ理由は何でしょう。あなたはなぜイエスの弟子なのでしょう。イエスの地上での役割は人生を通して天の父に栄光を帰すことでした。その一部として全ての人に救いをもたらすことがあるのです。弟子である私達の人生の目的も、神様に栄光を帰すことです。私達の人生に神様の恵みが働いていることを世界に向けて証しするのです。失われた人々に福音を伝えることは、神様に栄光を帰すことの一つであり、とても大切なことです。しかし、それだけが神様に栄光を帰すことではありません。日々福音伝道し

ていても、誰も知らないところで姦通の罪を犯していたら、神様の栄光にはなりません。人に信仰の土台を教えていても、自分の子どもに御言葉の真理を教えていなければ、神様の栄光にはなりません。人生の全てにおいて神様の栄光を現わさなければ意味がありません。

1. エフェソ 1:3-6 神様は天地創造の前から私達を弟子にしようとお選びになりました。原子や分子が存在する前から、神の子として私達を見ていらっしやったのです。しかし、なぜ私達を選んだのでしょうか。聖書が語るのは、神様の輝かしい恵みを私達が讃えるためです。言い換えると、私達が讃える神様を人々が讃えるようになるためです。何を行う際にもこれが目的であるべきです。なぜあなたは弟子なのか、神様があなたを弟子として選んでくださった目的がハッキリ分かっていますか。
2. 使徒 2:42-47 最初のクリスチャンには、新しい生活において色々な特徴が見られました。使徒の教え、相互の交わり、パンを裂くこと、祈ることに熱心でした。慈愛に満ち、貧しい人には持っている物を分け合って共有しました。その結果、神様が賛美され、救われる人々が増えるという結果に導かれたのです。成長も当然な産物でした。人々は目の前の光景に魅了され、クリスチャンになりました。あなたは初代クリスチャンと同じ目的を有する者と自覚していますか。変わらなくてはならないことはありませんか。あなたの人生は、世の人にとって魅力的でしょうか。
3. I ペテロ 4:11 クリスチャンは自分の人生の全てにおいて神様の栄光を表していると言えるようになるべきです。ペテロは、全てのことに神が栄光をお受けになるようにと言っています。なんと具体的な指示を与えてくれているのでしょうか！あなたは自信を持って、全ての点で神様に栄光を帰していると言えますか。
4. ヨハネ 21:18-19 神様は、あなたの人生の全てのとき——死に際でさえも神様の栄光を現わすように期待しています。イエスはペテロを見つめ、全ての分野で自分に倣うことを期待しました。その通り、ペテロは死に方までも神様の栄光となりました。あなたは死に至るまでも神の栄光を現わそうと思っていますか。

人生の目的を成し遂げていないと、弟子として人生が的外れのように感じます。多くの場合、原因はその目的が分かっていないことです。だから、生き方がキリスト教的ではないのです。私達の人生は、この世の光であるべきです。人々があなたの立派な行ないを見て、私達の創造主である天の父である神様をあがめるようになるためなのです(マタイ 5:14-16)。

課題：あなたの弟子としての目的をリストアップしましょう。

## 17日目 弟子の目的

学びの柱：弟子としての人生の目的は“弟子を作る弟子”を作ることです。

マルコ 1:16-18

イエスは、ガリラヤ湖のほとりを歩いておられたとき、シモンとシモンの兄弟アンデレが湖で網を打っているのを御覧になった。彼らは漁師だった。イエスは、「わたしについて来なさい。人間をとる漁師にしよう」と言われた。二人はすぐに網を捨てて従った。

マタイ 28：18－20

イエスは、近寄って来て言われた。「わたしは天と地の一切の権能を授かっている。だから、あなたがたは行って、全ての民をわたしの弟子にきなさい。彼らに父と子と聖霊の名によって洗礼を授け、あなたがたに命じておいたことを全て守るように教えなさい。わたしは世の終わりまで、いつもあなたがたと共にいる。」

使徒 2：40－41

ペトロは、このほかにもいろいろ話をして、力強く証しをし、「邪悪なこの時代から救われなさい」と勧めていた。ペトロの言葉を受け入れた人々は洗礼を受け、その日に三千人ほどが仲間に加わった。

使徒 8：1，4

サウロは、ステファノの殺害に賛成していた。

さて、散って行った人々は、福音を告げ知らせながら巡り歩いた。

なぜ神様はイエスの福音を全ての人に伝えてほしいと思われているのかと、疑問を持ったことはありませんか。人が創造された目的は神様に栄光を帰すことです。この事実を知っている人が増えれば増えるほど、神様の栄光が讃えられます。しかし、神様は数字ばかり気にする会社経営者ではありません。神様は愛深く、全ての人を子どもとして受け入れたいと望んでいらっしゃる。すでに神様の子どもとされた人は、神様の愛と恵みを伝える責任があります。神様の子どもとされたのに、その恵みを語らない子どもは、大事なことを忘れていきます。兄であるイエスと共に歩むのをやめてしまっているのです。神様に対する感謝を忘れてはいけません。1世紀の弟子達の生きる目的について調べ、私達の人生に当てはめましょう。

1. マルコ 1:16-18 イエスは最初の弟子達に何を望んでいるかを明確に伝えました。それは「人を捕る漁師」になることです。後に、これには異邦人の救いも含まれていることが分かります。異邦人伝道はユダヤ人にとっては非常に革新的な考えでした。あなたの人生は、この目的に対して、洗礼を受けた日と同じように捧げられていますか。
2. マタイ 28：18－20 イエスは弟子を作る範囲を、全ての民に広げています。ここでも新しい考えを加えています。イエスは彼の弟子に、他の人を“弟子にすることができる弟子”



を作ってほしいのです。十字架のメッセージを一世代で終わらせず、後の世代の全ての人に知らせたいのです。神様の世界伝道の計画は弟子が増えることではなく倍増することです。

3. 使徒 2:40-41 イエスの弟子達は、彼が課した目的、つまり、御言葉を伝え、教え、弟子を作ることを実践していました。1日で3000人が洗礼を受けました。マタイ 28章(大宣教命令)の神様の計画の一部が実現したのです。それは“弟子を作ることができる弟子”を作るということを実現していたでしょうか(現在、弟子が存在しているということは…?)。

4. 使徒 8:1, 4 教会に対する迫害は激しいものでした。弟子達は様々な所に散っていき、使徒達がエルサレムに残りました。クリスチャン達は、激しい迫害に遭いながら散って行き、それを宣教の機会としました。弟子達は、弟子を作ることができる弟子を作ったのです。あなたは迫害の中でもイエスに忠実でいられますか。信仰を分かち合い、弟子を作れますか。

イエスの弟子として、あなたの人生の目的は“弟子を作れる弟子”を作ることだと理解していますか。今まで誰かに洗礼を授けたことがありますか。その人は、次に誰かに洗礼を授けましたか。これが神様の計画です。今日、あなたの人生を神様の計画の実現のために、完全に捧げましょう。そのために祈りましょう。あなたの確信を近い弟子に話しましょう。そして、出掛けて行って“弟子を作ることのできる弟子”を作りましょう。

課題： このレッスンで得た確信と変わりたい点を、友人(近い弟子)に話しましょう。

## 18日目 弟子としての従順

学びの柱:弟子としてのゴールは、神様が求める全てのこと、たとえそれが難しいことでも、従順に聞き従うことです。

マタイ 28:20

あなたがたに命じておいたことを全て守るように教えなさい。わたしは世の終わりまで、いつもあなたがたと共にいる。」

ヨハネ 14:23-25

イエスはこう答えて言われた。「わたしを愛する人は、わたしの言葉を守る。わたしの父はその人を愛され、父とわたしとはその人のところに行き、一緒に住む。わたしを愛さない者は、わたしの言葉を守らない。あなたがたが聞いている言葉はわたしのものではなく、わたしをお遣わしになった父のものである。わたしは、あなたがたといたときに、これらのことを話した。

使徒 5 : 29

ペトロとほかの使徒たちは答えた。「人間に従うよりも、神に従わなくてはなりません。」

従順になることを考えたときに、救われたばかりの弟子にとってはたやすく、霊的な年数を重ねた弟子には難しいと感じることがあります。これは一般的な成長過程と逆ですね。若い弟子には信仰生活の全てが新鮮でエキサイティングです。が、霊的に年を取るにつれて、その新鮮さは徐々に失われていきます。従順もその一つです。私達は弟子になり、それまでの世俗的な行動から新しくクリスチャン的な行動にシフトします。しかし、クリスチャン的な行動が神様への従順とは限りません。「聞き従うことはいけにえにまさり、耳を傾けることは雄羊の脂肪にまさる」(Iサムエル 15 : 22)。今日のレッスンでは、私達が神様に従順になることを学びましょう。

1. マタイ 28 : 20 イエスは全ての弟子に、他の弟子から神に聞き従うことを教えられよう期待しています。従順は自然にできることではなく、訓練が必要なものです。イエスの人生のゴールは、天の父に聞き従い続けることでした。あなたは神様に聞き従うよう訓練されていますか。それは、あなたと神様の関係で優先されていますか。
2. ヨハネ 14 : 23-25 イエスは、従順を愛と見ます。「私はイエスを愛しています」と言う人が、イエスの言うことに従わなければ、矛盾しています。イエスに聞き従わない心は、イエスを憎むことと同じです。イエスは、私を愛さない者は私の言葉を守らない、と言っています。あなたはイエスを愛していますか。聞き従いますか。他の人はあなたのイエスへの従順さを見て、どれほどイエスを愛しているか分かりますか。
3. 使徒 5 : 29 イエスは弟子達の心に従順さを植え付けました。ペテロにとっては、宗教的指導者の圧力に屈するほうが安全でした。しかし、それはできないことでした。彼は、人ではなく神様に従うことから反れなかったのです。それゆえ、神様は彼を御国のために用いました。あなたの従順さはペテロのように揺るがないものですか。あなたは、イエスが弟子達に教えたように、従順になることを弟子に教えていますか。

聞き従うことは能力や財力と関係ありません。必要なのは何よりも神を愛したいと反応する心だけです。聞き従う訓練をされると、私達はもっともっと効果的に用いられます。これが神様が全ての弟子に持っている計画です。

課題：あなたの人生の中で、もっと神様に対して従順になれることをリストにしましょう。

## 19日目 指導者や権威に服従する弟子

学びの柱：神様を喜ばせたい、霊的に成長したいと思うならば、指導者や権威に従う心を

持たなくてはなりません。

ローマ 13 : 1-7

キリスト・イエスの僕、神の福音のために選び出され、召されて使徒となったパウロから、この福音は、神が既に聖書の中で預言者を通して約束されたもので、御子に関するものです。御子は、肉によればダビデの子孫から生まれ、聖なる霊によれば、死者の中からの復活によって力ある神の子と定められたのです。この方が、わたしたちの主イエス・キリストです。わたしたちはこの方により、その御名を広めて全ての異邦人を信仰による従順へと導くために、恵みを受けて使徒とされました。この異邦人の中に、イエス・キリストのものとなるように召されたあなたがたもいるのです。—神に愛され、召されて聖なる者となったローマの人たち一同へ。わたしたちの父である神と主イエス・キリストからの恵みと平和が、あなたがたにあるように。

I コリント 16 : 13-18

目を覚ましていなさい。信仰に基づいてしっかり立ちなさい。雄々しく強く生きなさい。何事も愛をもって行いなさい。兄弟たち、お願いします。あなたがたも知っているように、ステファナの一家は、アカイア州の初穂で、聖なる者たちに対して労を惜しまず世話をしてくれました。どうか、あなたがたもこの人たちや、彼らと一緒に働き、労苦してきた全ての人々に従ってください。ステファナ、フォルトナト、アカイコが来てくれたので、大変うれしく思っています。この人たちは、あなたがたのいないときに、代わりに務めてくれました。わたしとあなたがたを元気づけてくれたのです。このような人たちを重んじてください。

ヘブライ 13 : 17

指導者たちの言うことを聞き入れ、服従しなさい。この人たちは、神に申し述べる者として、あなたがたの魂のために心を配っています。彼らを嘆かせず、喜んでそうするようにさせなさい。そうでないと、あなたがたに益となりません。

使徒 16 : 1-5

パウロは、デルベにもリストラにも行った。そこに、信者のユダヤ婦人の子でギリシア人を父親に持つテモテという弟子がいた。彼は、リストラとイコニオンの兄弟の間で評判の良い人であった。パウロは、このテモテと一緒に連れて行きたかったので、その地方に住むユダヤ人の手前、彼に割礼を授けた。父親がギリシア人であることを皆が知っていたからである。彼らは方々の町を巡回して、エルサレムの使徒と長老たちが決めた規定を守るように人々に伝えた。こうして、教会は信仰を強められ、日ごとに人数が増えていった。

現代の宗教的トピックスの中で、クリスチャンが霊的なリーダーシップに服従すべきかどうか、ということほど論議を巻き起こす話題はありません。自律が尊ばれる現代において、服従は弱さや屈辱の表われです。しかし、これは霊的な視点ではありません。イエスは人生

の中で、様々な権威に従うことを学ばれました。私達も同じです。神様の救いの計画は、他者の介入があつてのことです(ローマ 10 : 14-15)。これは誰も自分を誇ったり独立的になつたりすることがないためです。イエスは弟子達が権威に従うことを期待しました。ここでは、私達が靈的に成長するためには服従心を持つ必要があることを学びます。

1.      ローマ 13 : 1-7  弟子は上に立つ権威に従うべきです。これは民主的な権威の場合だけでなく、パウロが書いているように、たとえ不正を行なう理不尽な権威者に対しても、です。私達は税金を納めなければなりませんし、全ての点で模範的な市民にならなければなりません。あなたは、上に立つ権威を神様に由来する権威として見えていますか。
2.      I コリント 16 : 13-18  パウロは、聖なる者たちに献身的に仕えた人々に従うよう期待しています。彼らは教会のために捧げ尽くしていました。ですから、それらの人々を受け入れ従うことは当然のことと言えます。
3.      ヘブライ 13 : 17  神様は靈的指導者に服従するよう命じています！教会でリーダーシップを執る者には御心に沿って指導する責任が課せられています。リーダーシップの重荷になってはいけません。彼らの重荷になることはあなたの益にもならないと聖句にあります。服従することを拒んで成長できる弟子などいません。高慢は神様への敵対です(ヤコブ 4 : 6)。謙虚に権威を受け入れるならば神様が祝福してくださることでしょう。
4.      使徒 16 : 1-5  服従する弟子の模範が2つ書かれています。1つ目は、使徒パウロがエルサレムの使徒と長老から命じられたことを実行している点です。彼は異邦人への手紙を届けました。2つ目は、若い弟子であるテモテです。パウロが宣教旅行に同行させる際に割礼を受けるよう勧めたとき、彼は承知しました。これは命令ではありませんでした。パウロは割礼を受けるほうが宣教に有利だと考えました。まずユダヤ人の会堂に行って説教する計画だったからです。割礼を受けていなかったらテモテは会堂に入るのを許可されなかったでしょう。あなたはリーダーが聖句を見せたときだけ服従しますか。あなたは勧奨や意見というレベルでも聞き従いますか。

クリスチャンは、社会の統治者にも御国の指導者にも服従しなくてはなりません。神様は、私達が権威を拒絶するときに祝福できません。それは神様に対する反抗と同じだからです。神様が決めたリーダーシップを謙虚に受け入れるならば神様が祝福してくださるでしょう。

課題：小グループリーダー、またはミニストリーリーダーに感謝する手紙を書きましょう。

## 20日目 弟子として神様に依り頼む

学びの柱：靈的に成長したい弟子は、完全に神様に依り頼むことを学ぶ必要があります。

ガラテヤ 3 : 1-3

ああ、物分りの悪いガラテヤの人たち、だれがあなたがたを惑わしたのか。目の前に、イエス・キリストが十字架につけられた姿ではっきり示されたではないか。あなたがたに一つだけ確かめたい。あなたがたが"霊"を受けたのは、律法を行ったからですか。それとも、福音を聞いて信じたからですか。あなたがたは、それほど物分りが悪く、"霊"によって始めたのに、肉によって仕上げようとするのですか。

フィリピ 4 : 13 わたしを強めてくださる方のお陰で、わたしには全てが可能で。

箴言 15 : 22 相談しなければどんな計画も挫折する。参議が多ければ実現する。

箴言 11 : 14 指導しなければ民は滅びるが参議が多ければ救われる。

使徒 15 : 6 そこで、使徒たちと長老たちは、この問題について協議するために集まった。

神の霊が、私達が弟子になるよう導いてくれます。私達は、「水と霊によって」再び生まれるのです(ヨハネ 3 : 5)。聖霊の力によってスタートしたクリスチャンとしての人生の旅は自分の力でゴールできません。ところが、そうしたいと私達は思ってしまう。全ての弟子にとって完全に神様に依り頼むことを学ぶことは大きな課題です。謙虚な心を持ち、神様に力と知恵で満たしていただくよう自分を開け渡す人だけが、霊的により成長することができます。今日の学びでは、弟子がもっと神様に依り頼むべき点はどこかを調べましょう。

1. ガラテヤ 3 : 1-3 パウロはガラテヤ教会に対して怒りました。なぜなら、彼らは霊的に完璧になろうとして律法主義に戻ってしまったからです。パウロは、それはあってはならないことと叱責しました。霊によって始めたのならば霊によって仕上げるべきです！あなたは弟子としての人生を、神の力によって生きていますか。あなたは、神の御心を行なうために神様の力が与えられるよう日々祈っていますか。
2. フィリピ 4 : 13 パウロは、神様の力をいただければどんなことでもできると確信していました。神様に不可能はありません。限界の原因となるのは、神様に力を与えていただくよう依り頼んでいるかどうかということです。神様の知恵と力は測り知れません。あなたは神様が力を与えてくださればどんなことでもできると信じていますか。あなたの人生は神様に頼っていることが反映されていますか。
3. 箴言 15 : 22 私達が神様に依り頼んでいるかどうかを確認するために、アドバイスを求めているかを振り返ってください。聖書は、相談すれば計画が実現すると教えています。なぜ私達はアドバイスを求めないのでしょうか。多くの場合、私達のプライドの罪

が他の人に謙虚に意見を求めることを妨げてしまいます。あなたは何か計画するとき、アドバイスを求めますか。逆に、自分の人生に関わることは全て自分で成し遂げられると思っていますか。もしそうであれば、十分に神様に依り頼んでいないことでしょう。

4. 箴言 11 : 14 思いきって前進するときは、誰もが勝利を期待したいものです。それは霊的な助言者がいれば可能です。神様は私達の勝利を約束してくれます。あなたは、助言を求める人として知られていますか。または、独立的だと思われていますか。
5. 使徒 15 : 6 弟子は律法に戻らなければならないという間違いを教える者が現れ、教会で問題になりました。パウロは使徒として、この問題を解決する権威を授けられていましたが、彼はエルサレムまで行って他の使徒や長老達の知恵と助言を求めました。パウロは、そこまで行かされた、と怒ることはありませんでした。パウロには助言を求めることによって神様の知恵が明らかになるという確信がありました。使徒会議での決定事項をパウロが各教会に伝えました。あなたはパウロと同じ謙虚さを持っていますか。

神様に依り頼むことは、私達に安心(peace)と平穩(tranquility)をもたらします。自分の力に頼ると孤立し、孤独を感じるでしょう。知恵や助言を求めることは、あなたの謙虚さの度合いをテストするようなものです。他の弟子に助言を求めるならば、勝利は約束されています。

課題：あなたが最近、何かについてアドバイスを求めたことを書いてください。

## 21日目 弟子は模倣によって成長する

学びの柱：人に倣うことで短時間に深く変れます。

I コリント 11 : 1

わたしがキリストに倣う者であるように、あなたがたもこのわたしに倣う者となりなさい。

I コリント 4 : 14-17

こんなことを書くのは、あなたがたに恥をかかせるためではなく、愛する自分の子供として諭すためなのです。キリストに導く養育係があなたがたに一人いたとしても、父親が大勢いるわけではない。福音を通し、キリスト・イエスにおいてわたしがあなたがたをもうけたのです。そこで、あなたがたに勧めます。わたしに倣う者になりなさい。テモテをそちらに遣わしたのは、このことのためです。彼は、わたしの愛する子で、主において忠実な者であり、至るところの全ての教会でわたしが教えているとおりに、キリスト・イエスに結ばれたわたしの生き方を、あなたがたに思い起こさせることでしょう。

使徒4：13 わたしを強めてくださる方のお陰で、わたしには全てが可能です。

使徒7：54-60

人々はこれを聞いて激しく怒り、ステファノに向かって歯ぎしりした。ステファノは聖霊に満たされ、天を見つめ、神の栄光と神の右に立っておられるイエスとを見て、「天が開いて、人の子が神の右に立っておられるのが見える」と言った。人々は大声で叫びながら耳を手でふさぎ、ステファノ目がけて一斉に襲いかかり、都の外に引きずり出して石を投げ始めた。証人たちは、自分の着ている物をサウロという若者の足もとに置いた。人々が石を投げつけている間、ステファノは主に呼びかけて、「主イエスよ、わたしの霊をお受けください」と言った。それから、ひざまずいて、「主よ、この罪を彼らに負わせないでください」と大声で叫んだ。ステファノはこう言って、眠りについた。

クリスチャンの人生には、根深い罪を悔い改めたり、性格的な弱さを直したりするという課題があります。受洗して間もない頃は、表面的な罪を悔い改めようとし、簡単に悔い改められる手応えがあります。しかし、何層かの表面の性質が変わった後、芯の部分を変えるのは難しくなります。この深く難しい性質を変える秘訣は、霊的に真似をすることです。霊的に成熟した人を真似すると、速やかに継続的に変わることができます。この真似することの障害物になるのはプライドです。高慢であると自分より成熟した人を受け入れることができません。今日は、私達は皆、真似をする必要があることを学びましょう。

1. I コリント 11：1 パウロはクリスチャン達に、自分に倣うよう命じました。パウロは横柄な自信家だったのでしょうか。いいえ、パウロは聖霊に導かれて命じたのです。これは神様の計画であってパウロの計画ではありません。あなたは、霊的な人を真似ることを恐れますか。なぜそう感じるのでしょうか。

2. I コリント 4：14-17 パウロは、彼に倣うように教会に命じ、テモテを送ることにします。テモテはパウロの生き方を思い起こさせる弟子だったからです。テモテはパウロの真似をし、よく学びました。だから、パウロは問題のある教会にテモテを送り、解決させる確信がありました。人があなたを見たとき、あなたをディサイプリングしている人を思い起こしますか。そうでなければ、霊的な成長は期待できません。神様は高慢さを嫌われます。

4. 使徒 4：13 議員達がペトロ達の大胆な変化を見て分かったことは、イエスと一緒にいた者であるということでした。使徒達の中にイエスの性質が見られました。怖がりやで不信仰な使徒達が聖霊の力によって変わりました。イエスの真似をし始めたからです。真似することが、速やかに永遠に彼らの人生を変えました。あなたはこれまでにディサイプリングしてくれる人を真似て、周囲に分かるほど大胆な性質の変化を遂げたことがありますか。

5. 使徒 7：54-60 ステファノは死ぬ際にも完全にイエスの真似をしました。彼の言

葉や祈りは、イエスの十字架思い出させます。1世紀の弟子達は、霊的な模倣によって大胆かつ永遠の変化を人生にもたらすことができました。

全ての弟子はイエスのように成長したいと願うべきです。では、どうしたら成し遂げられるでしょう。パウロがコリント教会に命じたことに従いましょう。イエスの模範に倣うディサイプラーに倣いましょう。この霊的原則は神様が定めたもので、私達の人生に速やかに永続的な変化を起こしてくれます。

課題： 人生の中で、これまであなたが真似をして似てきた人々5名を挙げてみましょう。

## 22日目 僕として生きる弟子

学びの柱： 僕の心を持つことは、神様から選ばれた責務の一つを果たすこととなります。

エフェソ4:11-12

そして、ある人を使徒、ある人を預言者、ある人を福音宣教師、ある人を牧者、教師とされたのです。こうして、聖なる者たちは奉仕の業に適した者とされ、キリストの体を造り上げてゆき、

Iコリント 15:9-10

わたしは、神の教会を迫害したのですから、使徒たちの中でもいちばん小さな者であり、使徒と呼ばれる値打ちのない者です。神の恵みによって今日のわたしがあるのです。そして、わたしに与えられた神の恵みは無駄にならず、わたしは他の全ての使徒よりずっと多く働きました。しかし、働いたのは、実はわたしではなく、わたしと共にある神の恵みなのです。

使徒 9：36-43

ヤッファにタビタ—訳して言えばドルカス、すなわち「かもしか」—と呼ばれる婦人の弟子がいた。彼女はたくさんの善い行いや施しをしていた。ところが、そのころ病気になって死んだので、人々は遺体を清めて階上の部屋に安置した。リダはヤッファに近かったので、弟子達はペトロがリダにいると聞いて、二人の人を送り、「急いでわたしたちのところへ来てください」と頼んだ。ペトロはそこをたって、その二人と一緒に出かけた。人々はペトロが到着すると、階上の部屋に案内した。やもめたちは皆そばに寄って来て、泣きながら、ドルカスが一緒にいたときに作ってくれた数々の下着や上着を見せた。ペトロが皆を外に出し、ひざまずいて祈り、遺体に向かって、「タビタ、起きなさい」と言うと、彼女は目を開き、ペトロを見て起き上がった。ペトロは彼女に手を貸して立たせた。そし



て、聖なる者たちとやもめたちを呼び、生き返ったタビタを見せた。このことはヤッファ中に知れ渡り、多くの人が主を信じた。ペトロはしばらくの間、ヤッファで革なめし職人のシモンという人の家に滞在した。

使徒 6:1-7

そのころ、弟子の数が増えてきて、ギリシア語を話すユダヤ人から、ヘブライ語を話すユダヤ人に対して苦情が出た。それは、日々の分配のことで、仲間のやもめたちが軽んじられていたからである。そこで、十二人は弟子を全て呼び集めて言った。「わたしたちが、神の言葉をないがしろにして、食事の世話をするのは好ましくない。それで、兄弟たち、あなたがたの中から、"霊"と知恵に満ちた評判の良い人を七人選びなさい。彼らにその仕事を任せよう。わたしたちは、祈りと御言葉の奉仕に専念することにします。」一同はこの提案に賛成し、信仰と聖霊に満ちている人ステファノと、ほかにフィリポ、プロコロ、ニコノル、ティモン、パルメナ、アンティオキア出身の改宗者ニコラオを選んで、使徒たちの前に立たせた。使徒たちは、祈って彼らの上に手を置いた。こうして、神の言葉はますます広まり、弟子の数はエルサレムで非常に増えていき、祭司も大勢この信仰に入った。

私達が弟子としての世の人との差異を発揮できる機会は、仕えるという分野においてです。私達の仕える態度からクリスチャンとしての喜びと平和が明らかになります。私達が十数年に渡る献血活動や、震災復興支援などを行なっているのを世の人は目にしますが、その根底にある私達の愛や忍耐は理解されにくいものです。しかし、どんな働きにおいても、どの企業においても最も素晴らしい社員はクリスチャンであるべきです。その仕事が平凡でつまらないものであっても、私達は神様の栄光のために行なうのです。これこそが神様の計画です。私達は世の光であり、世は私達の良い行ないを見て神様を讃えるのです。このレッスンでは、全ての人の僕として弟子が持つべき態度を吟味していきます。

1. エフェソ 4:11-12 弟子達が成熟して仕える役割において効果を発揮できるようになることも、神様の期待です。私達は人に与えるからこそ生き生きとできるのです。受けるのみなら、それはヨルダン川からの流入だけで流出口がない死海のように、濁った淀みになるでしょう。弟子は人に与えなければならないのです。それが神様の目的を果たすことなのです。あなたは、あなたの役割が“全ての人の僕”であると捉えていますか。
2. I コリント 15:9-10 弟子達が一生懸命に仕える動機は何だったのでしょうか。パウロは、それは神様の恵みだと教えています。恵みによって救われ、生き直す2度目のチャンスを与えられたのだと理解したとき、私達は動機付けられるでしょう。あなたは神様の恵みに動機付けられていますか。あなたは誰かを車で送迎したり、食事会のために料理をしたり、既婚者礼拝中にベビーシittingをすることに不満や憤りを感じてはいませんか。もしそうなら、あなたは神様の恵みを忘れてしています。

3. 使徒 9:36-43 ドルカスは仕える人として評判の弟子でした。彼女が亡くなったとき、教会は深く悲しみました。ペトロはここに示された深い愛に感動し、ドルカスを死から甦らせました。彼女はそれほど大きな影響を与えていたのです。仕えることについてあなたの評判はドルカスのようでしょうか。または、あなたはそのような評判を望んでいますか。
4. 使徒 6:1-7 教会内には問題がありました。それは仕えることに関してでした。食卓で料理を待っているだけ、という間違っただけの人々もいました。教会は秩序を持つ必要がありました。使徒達は、御言葉と祈りという責務を果たすため、仕えることに関しては執事を任命し、その結果として御言葉は広まっていきました。仕えることは世界伝道にも大きな影響があります。あなたのミニストリーは上手くいっていますか。もしもそうでないのであれば、あなたが仕えていないからかもしれません。

イエスは「最も偉大な者は僕（しもべ）だ」と言いました。これを素直に受け入れられますか。仕えてもらう者のほうが仕える者よりも偉大なように思われます。私達が仕えることで、人々は私達がイエスの弟子であると知る機会にもなります。仕えることは私達の確信の深さを測り得るものです。神様の恵みへの感謝が、イエスが仕えたようにあなたが仕える動機となっていることを自覚していますか。

課題: 神様の恵みがあなたの仕える動機をどのように強めているか箇条書きにしてください。

## 23日目 イエスの弟子としての歩み

学びの柱: 弟子は互いに霊的に成長し、忠実であり続けるために近い関係が必要です。

箴言18:24 友の振りをする友もあり兄弟よりも愛し、親密になる人もある。

箴言 27:17 鉄は鉄をもって研磨する。人はその友によって研磨される。

I サムエル 18:1

ダビデがサウルと話し終えたとき、ヨナタンの魂はダビデの魂に結びつき、ヨナタンは自分自身のようにダビデを愛した。

II コリント 2:12-13

わたしは、キリストの福音を伝えるためにトロアスに行ったとき、主によってわたしのた

めに門が開かれていましたが、兄弟テトスに会えなかったので、不安の心を抱いたまま人々に別れを告げて、マケドニア州に出発しました。

フィリピ 2:19-24

さて、わたしはあなたがたの様子を知ってカづけられたいので、間もなくテモテをそちらに遣わすことを、主イエスによって希望しています。テモテのようにわたしと同じ思いを抱いて、親身になってあなたがたのことを心にかけている者はほかにいないのです。他の人は皆、イエス・キリストのことではなく、自分のことを追い求めています。テモテが確かな人物であることはあなたがたが認めるところであり、息子が父に仕えるように、彼はわたしと共に福音に仕えました。そこで、わたしは自分のことの見通しがつきまじいすぐ、テモテを送りたいと願っています。わたし自身も間もなくそちらに行けるものと、主によって確信しています。

誰でもベストフレンドは欲しいでしょうし、必要です。靈的に強いイエスもペトロ、ヤコブ、ヨハネのように近い友人を必要としました。イエスが神様のために多くを成し遂げられたのは、近しい友人達がいたからです。全ての弟子にとってこれに倣うことはとても重要です。感情的になったりイライラしたりするときに、近しい友人に助けてもらえます。そのような助けがないと、時として神様から離れてしまいます。今日は、友人関係における私達のニーズと、友人達からどのように靈的成長を助けてもらえるかを学びます。

1. 箴言 18:24 多くの仲間がいたとしても、近い友人がいるわけではありません。全ての弟子に必要なのは兄弟よりも近い、感情的にも靈的にもニーズを満たしてくれる友人を1人でも良いので持つことです。今、あなたにはそのような友人がいますか。誰とそのような関係を築きたいですか。
2. 箴言 27:17 真の友人とは単に一緒に時間を過ごす相手ではなく、互いに靈的に高め合う関係です。ある面ではこの人に、別の面では違う人にニーズを分かち合うのでは、互いに高め合うことになりません。あなたを靈的に高めてくれる人は誰でしょう。
3. I サムエル 18:1 ダビデとヨナタンには命を捧げ合うほどの深い友情がありました。ヨナタンはダビデを守ったことで父親から怒りを買いました。彼らの友情は魂が一つになったと表現されています。あなたは誰とこのような親しい関係を築いていますか。
4. II コリント 2:12-13 パウロにはテトスが必要でした。パウロは友人を必要としていたので、信仰の扉が開かないことさえ許しました。深い友情なしには世界伝道は危ういでしょう。あなたの友情は世界伝道を成し遂げることに助けになっていますか。
5. フィリピ 2:19-24 テモテはパウロのベストフレンドでした。パウロはテモテをミニストリーで訓練し、しばしば自分の代わりにテモテを送り出しました。テモテはパウロ

ロとの良い関係を通して、周囲にとっても良い影響を与えました。近い関係の目標は、神様のために実を結び、神様の影響を広めることです。あなたの友情関係はこれに当てはまりますか。あなたの友情関係を通して誰かに影響を与えたことがありますか。

近しい関係を築く上で重要な要素は時間です。時間は大切な友情づくりのためのものと捉えるべきです。これが私達の「時間を過ごす」定義です。2、3人の深い友情関係によって私達は霊的に強くなり、イエスが私達に与えた目標を成し遂げることができるのです。

課題：御国の中であなたは誰と誰の友情関係を尊敬していますか。

## 24日目 心を包み隠さず光にあてる



学びの柱：赦しと癒しを得るために心を開くのは大切なことです。

ヤコブ5：16

だから、主にいやしていただくために、罪を告白し合い、互いのために祈りなさい。正しい人の祈りは、大きな力があり、効果をもたらします。

箴言28：13 罪を隠している者は栄えない。告白して罪を捨てる者は憐れみを受ける。

使徒19：17-20

このことがエフェソに住むユダヤ人やギリシア人全てに知れ渡ったので、人々は皆恐れを抱き、主イエスの名は大いにあがめられるようになった。信仰に入った大勢の人が来て、自分たちの悪行をはっきり告白した。また、魔術を行っていた多くの者も、その書物を持って来て、皆の前で焼き捨てた。その値段を見積もってみると、銀貨五万枚にもなった。このようにして、主の言葉はますます勢いよく広まり、力を増していった。

Ⅱコリント7：5-7

マケドニア州に着いたとき、わたしたちの身には全く安らぎがなく、ことごとくに苦しんでいました。外には戦い、内には恐れがあったのです。しかし、気落ちした者を力づけてくださる神は、テトスの到着によってわたしたちを慰めてくださいました。テトスが来てくれたことによってだけでなく、彼があなたがたから受けた慰めによっても、そうしてくださったのです。つまり、あなたがたがわたしを慕い、わたしのために嘆き悲しみ、わたしに対して熱心であることを彼が伝えてくれたので、わたしはいっそう喜んだのです。

感情や弱さをさらけ出すことを恐れる人は多いでしょう。相手から拒絶されたり、さげすまされたりするかもしれないというリスクを孕んでいるからです。そのため、自分の良いイメージを維持し、本当の自分ではなく違う自分を演じてしまいます。イエスは私達がそのよ

うに偽ることから解放してくれます。イエスはご自身を正直にさらけ出しました。今日は、心を開くことの重要性和、それを日々どのように実践していくかを学びます。

1. ヤコブ 5 : 16 弟子は自分の罪を正直に明るみに出すように命じられています。ヤコブは、この手紙を弟子に向けて書きました。洗礼を受ける前だけに必要なことと限定していません。罪の告白は弟子の人生の一部です。罪の告白によって神様から赦され続ける必要があります(Ⅰヨハネ 1 : 9)。また、罪の告白は謙虚でなければできません。罪を正直に認め、告白し、祈るとき、私達は神様の助けを得て弱さを乗り越えられます。最近、誰かに罪を告白しましたか。自分の弱さについて誰かと一緒に祈りましたか。
2. 箴言 28 : 13 自分には罪がないと言うのは霊的に健全なことではありません。罪を隠すとき、神様が裁かれます(民数記 32 : 23)。罪を告白すると、まるで肩から重荷が下りたように感じます。神さまの憐れみを深く理解し、心の平安を得られるからです。
3. 使徒 19 : 17-20 弟子となる際に私達は罪を告白して悔い改めますが、受洗後も続けて行う必要があります。世の中では、罪の告白は馬鹿馬鹿しいことのように考えられがちです。あなたはディサイプリングパートナーに罪の告白をしていますか。もしそうでないとすれば、なぜでしょうか。
4. Ⅱコリント 7 : 5-7 パウロは自分の感情について正直でした。マケドニアに到着したとき、パウロは多くの試練に直面しましたが、恐怖心を認め、傷つき、悲しく、落ち込んでいると告白しました。神様はテトスを送ってパウロを慰め、コリントの教会の状況を伝えました。パウロは、彼が送った最初の手紙にコリントの弟子達が反発しているのではないかと不安でした。教会の悔い改めを知るまで、説教する機会もありませんでした(Ⅱコリント 2 : 12-13)。あなたは自分の弱さや恐れに対して、周りの人にどのくらいオープンでしょうか。気分が落ち込んだとき、罪を犯しているのだという認識はありますか。神様に従う意欲を失くさせるような落ち込みは罪です。

全ての弟子は心を開いて自分の本当の感情に正直になることを学ばなくてはなりません。心の周りに打ち建てた壁を取り除く必要があります。互いに正直になれば関係も近くなります。私達は皆、弱さがあります。ですから、感情や罪について正直に話せば、近く感じ合えるでしょう。そして私達が謙虚になるとき、神様は祝福してくださいます。

課題：あなたがよく恐れを感じる事柄について書き出してみましょう。

## 25日目 卓越を目指そう

学びの柱：弟子は神様に召されている者として、全てにおいて最善を尽くすべきです。

コロサイ3：23-24

何をするにも、人に対してではなく、主に対してするように、心から行いなさい。あなたがたは、御国を受け継ぐという報いを主から受けることを知っています。あなたがたは主キリストに仕えているのです。

箴言18：9 仕事に手抜きする者はそれを破壊する者の兄弟だ。

マタイ 25：26-30

主人は答えた。『怠け者の悪い僕だ。わたしが蒔かない所から刈り取り、散らさない所からかき集めることを知っていたのか。それなら、わたしの金を銀行に入れておくべきであった。そうしておけば、帰って来たとき、利息付きで返してもらえたのに。さあ、そのタラントンをこの男から取り上げて、十タラントン持っている者に与えよ。だれでも持っている人は更に与えられて豊かになるが、持っていない人は持っているものまでも取り上げられる。この役に立たない僕を外の暗闇に追い出せ。そこで泣きわめいて歯ぎしりするだろう。』」

フィリピ2：19-23

さて、わたしはあなたがたの様子を知って力づけられたいので、間もなくテモテをそちらに遣わすことを、主イエスによって希望しています。テモテのようにわたしと同じ思いを抱いて、親身になってあなたがたのことを心にかけている者はほかにいないのです。他の人は皆、イエス・キリストのことではなく、自分のことを追い求めています。テモテが確かな人物であることはあなたがたが認めるどころであり、息子が父に仕えるように、彼はわたしと共に福音に仕えました。そこで、わたしは自分のことの見通しがつきしだいすぐ、テモテを送りたいと願っています。

アダムが罪を犯したとき、神は人類に「顔に汗を流して（働き）糧を得」（創世記3：19）なければならないと命じられました。そこから、働くことは呪いと考える人もいます。しかし、イエスの態度は異なっていました。彼は長年、大工として働きました。イエスが仕事に熱心であったことから、我々も仕事に精を出すべきであることが分かります。全ての弟子は、職場や学校を神様に栄光を帰す場と考えるべきです。仕事は呪いではなく、神様の子どもとして光となり、人々があなたの仕事を通して天の父を賛美するようになることが期待されているのです(マタイ5：16)。今日は、天の父である神様の前で、仕事や勉強に最善の努力をするための心構えについて学んでいきましょう。

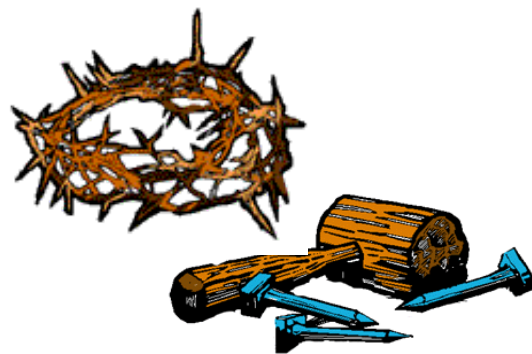
1. コロサイ 3：23-24 全てにおいて最善を尽くすために必要なことは、自分が誰に仕えているのか忘れないことです。上司を喜ばすためとか、給料のためとってしまうと、最善を尽くそうと思わなくなります。しかし、神様を喜ばせるために行なっている

ことを自覚すれば深い動機が与えられます。あなたの報酬は天国にあるのであって、月々の給料とは比べものになりません。なぜ仕事をしますか。給料のためですか、それとも天に富を積むためでしょうか。

2. 箴言 18：9 自分の仕事を怠けるものは、滅びをもたらすものの兄弟である——時々、仕事は適当にやればよいと思ってしまうかもしれませんが、そうではありません。あなたは職場や学校で常に 100%の力を出して仕事に励むべきです。ベストを尽くしている人は非難されることはありません。あなたは自分が神様の高い期待に答えていると公言できますか。
3. マタイ 25：26-30 多くの場合、最善を尽くすことを妨げているものは怠惰です。神様は各人が与えられた能力をどのように使ったかということで判断を下します。怠惰であり、中途半端な努力しかしない結果を神様は受け入れることはできません。神様は 1 タラントン与えた僕を暗闇に追い出し、彼はそこで泣いて歯ぎしりすることになったのです。あなたには怠け癖がありますか。どのように克服しようとしていますか。怠惰の罪があるなら、それを告白していますか。
4. フィリピ 2：19-23 テモテはパウロにとって特別な弟子でした。パウロはテモテが若い頃から彼を訓練しました。テモテはよく学び、パウロにとって信頼できる存在になったのです。パウロはテモテのように「同じ心になって、真実にあなた方のことを心配している者はほかに誰もいない」と述べています。テモテはいつも 100 パーセントの心で仕えました。あなたは DP パートナーにそのような高い期待をかけていますか。

私達はいつも誰に仕えているのかということをおぼえてはなりません。神様が今日、あなたの前に現れ、何かを頼んだとしたら、あなたはどのように反応しますか。私達はどのような犠牲を払っても神様を喜ばせたいと思ふべきではないでしょうか。職場や学校でやらなくてはならないことも、神様から与えられた課題であることをおぼえてはなりません。どのようなときも最善を尽くしましょう。

課題：自分が得意なことを書き出し、神様にどのように栄光を返せるか考えてみましょう。



## 26日目 弟子として喜び、感謝しよう

学びの柱：喜びと感謝によって、弟子は世の光となれます。

I テサロニケ 5 : 16-18

いつも喜んでいなさい。絶えず祈りなさい。どんなことにも感謝しなさい。これこそ、キリスト・イエスにおいて、神があなたがたに望んでおられることです。

ルカ 10 : 20

しかし、悪霊があなたがたに服従するからといって、喜んではならない。むしろ、あなたがたの名が天に書き記されていることを喜びなさい。」

フィリピ 4 : 4 主において常に喜びなさい。重ねて言います。喜びなさい。

使徒 5 : 41-42

それで使徒たちは、イエスの名のために辱めを受けるほどの者にされたことを喜び、最高法院から出て行き、毎日、神殿の境内や家々で絶えず教え、メシア・イエスについて福音を告げ知らせていた。

どのような状況でも喜ぶことは容易ではありません。私達は感情的な人間であり、いつも笑顔でいることなど不可能です。しばしば私達の喜びは状況に左右されます。しかし、困難な状況でも肯定的な視点を持てば喜ぶことは可能です。否定的になり、悪い面ばかり見れば悲観的になり落ち込み続けるでしょう。弟子は状況に左右されずに満足することを学ばなくてはなりません。そこから喜びと感謝を感じられるのです。この態度は世の中とは逆であり、だからこそ、神様の栄光を輝かせることができるのです。今日は、いつも喜ぶために霊的にどのように成長すればよいのかを学びましょう。

1. I テサロニケ 5:16-18 いつも喜びなさい——何と高い期待でしょう。喜びは感情なのでコントロールするには固い自制心が必要です。しかし、神さまは私達に無理な掟を決してお与えになりません。イエスは私達に思い煩うなど言われました(ヨハネ 14 : 1)。イエスは私達がいつも喜ぶことは可能であると言うのです。そのためには、何が喜ぶことなのか深く理解しなくてはなりません。喜ぶとは嬉しい感情にとどまらず、心に平安があることです。状況にかかわらず感謝できることです。神様を信頼することです(ローマ 8 : 28)。あなたはいつも喜んでいますか。試練のときにも感謝していますか。
2. ルカ 10:20 イエスは弟子達に天に名が記されていることを喜びなさいと言われました。あなたの喜びがあなたの能力や地位を根拠にするなら落ち込むことになるでしょう。そうではなく、喜びは神様との関係に基づくべきものです。そうすれば、あなたは喜びと感謝に包まれるでしょう。あなたは神様に救われたことをいつも喜んでいますか。天にあなたの名が記されていることに感謝を献げていますか。



3. フィリピ 4:4 主において喜ぶことは、状況において喜ぶよりもずっと簡単なことです。神様に喜びを見出すのです。ヤコブ 4:1-3 に書かれているように、私達は自分の思いと神様の計画が異なる時、つい悲しんでしまいます。あなたは主において喜んでいますが。世の中的な思いよりも神様の御心を大切にしていますか。
4. 使徒 5:41-42 弟子達は鞭で打たれた後も喜んでいました。なぜそのようにできたのでしょうか。弟子達は天に思いを集中していたため、喜べたのです。キリストの苦しみを分かち合うことにも喜びを感じていました。それが神様に栄光を帰すことができると確信していたのです。あなたはそれほど深い関係を神様と持っているのでしょうか。あなたの身に起こる試練や苦難も神様の栄光を表わす機会として捉えていますか。

感情をコントロールすることは可能です。イエスは喜びと感謝にあふれた人でした。私達も倣いましょう。天国に思いを集中させればどのような試練も乗り越えられるでしょう。ステファノは迫害され殺されたときに、天にいる神様とイエスの栄光を見ることができました(使徒 5:54-60)。心に感謝と喜びがあれば、私達も神様に栄光を帰す光となれるでしょう。

課題：人生で最も困難なことは何ですか。それを喜ぶにはどうしたらよいでしょうか。

## 27日目 金銭を賢く使う

学びの柱：神様から与えられ預かっている財産を御心に沿って賢く管理しましょう。

### I テモテ 6:6-10

もともと、信心は、満ち足りることを知る者には、大きな利得の道です。なぜならば、わたしたちは、何も持たずに世に生まれ、世を去るときは何も持って行くことができないからです。食べる物と着る物があれば、わたしたちはそれで満足すべきです。金持ちになろうとする者は、誘惑、罫、無分別で有害なさまざまの欲望に陥ります。その欲望が、人を滅亡と破滅に陥れます。金銭の欲は、全ての悪の根です。金銭を追い求めるうちに信仰から迷い出て、さまざまのひどい苦しみに突き刺された者もいます。

### I テモテ 6:17-19

この世で富んでいる人々に命じなさい。高慢にならず、不確かな富に望みを置くのではなく、わたしたちに全てのものを豊かに与えて楽しませてくださる神に望みを置くように。善を行い、良い行いに富み、物惜しみをせず、喜んで分け与えるように。真の命を得るために、未来に備えて自分のために堅固な基礎を築くようにと。

使徒 4 : 32-37

信じた人々の群れは心も思いも一つにし、一人として持ち物を自分のものだと言う者はなく、全てを共有していた。使徒たちは、大いなる力をもって主イエスの復活を証しし、皆、人々から非常に好意を持たれていた。信者の中には、一人も貧しい人がいなかった。土地や家を持っている人が皆、それを売っては代金を持ち寄り、使徒たちの足もとに置き、その金は必要に応じて、おのおのに分配されたからである。たとえば、レビ族の人で、使徒たちからバルナバ——「慰めの子」という意味——と呼ばれていた、キプロス島生まれのヨセフも、持っていた畑を売り、その代金を持って来て使徒たちの足もとに置いた。

使徒 2 : 44-45

信者たちは皆一つになって、全ての物を共有にし、財産や持ち物を売り、おのおのの必要に応じて、皆がそれを分け合った。

金銭への執着は、神様への愛と献身を壊しかねません。以前ほど神様への献身が熱心でなくなっていないですか。最近、犠牲について学んでいますか。神様への情熱が冷めてしまった理由が分からないでしょうか。金銭に頼り安楽な生活を望むことで、神様との関係が変わってしまうこともあります。金銭への固執は、気づかないうちに私達の生活に忍び寄る罪です。金銭に対してどのような態度があり、弟子としての人生にどのように影響しているか、確認することは大切です。今日は、金銭への執着がもたらす危険性と私達の取るべき態度について学びましょう。

1. I テモテ 6 : 6-10 パウロは金銭への固執はあらゆる悪の根源にあると警告しています。金銭を愛するために信仰から迷い出る人もいます。「迷い出る」という言葉は神様との関係が徐々に時間をかけて壊されてしまうことを示唆します。なぜなら、たいてい弟子は神様よりも金銭を愛そうと決心するわけではないからです。誘惑に陥るプロセスはゆっくり浸食してくるのです。受洗の際の神様への情熱と献身から、徐々にこの世の快樂への希求へと変わっていきます。富の誘惑により霊の実が熟せなくなります(ルカ 8 : 14)。今あなたの神様への情熱は、バプテスマを受けた頃と比べてどうでしょうか。情熱が薄れているとしたら、なぜでしょうか。

2. I テモテ 6:17-19 富は確実なものと思われがちですが、実は不確かで虚しいものです。金銭に信頼をおいて、裏切られることもあるでしょう。神様に信頼をおきましょう。神様は絶対にあなたを見捨てません。金銭はあなたに満足と平安を与えることができず、むしろ、責任と思い煩いを与えるのです。あなたは神様と金銭とどちらを信頼しますか。神様と巨額な富とでは、どちらが安心でしょうか。

3. 使徒 4 : 32-37 教会が初期の問題は迫害ではなく、金銭のことでした。アナニアとサフィラは献身ぶりをアピールしようとしてしました。人に認められたいという欲が神様を欺くことを招いたのです。財産がなかったら、罪に陥ることはなかったかもしれません。自分

を良く見せたいという欲を満たすために金銭を用いたのです。6章では、やもめの世話についての問題が書かれています。やはり金銭の使い方は大切な問題でした。使徒たちが間違った決断を下していたら教会は分裂したかもしれません。金銭をどのように使うかということは霊的な問題です。あなたは金銭の使い方について霊的な助言を求めていますか。

4. 使徒 2:44-45 1世紀の弟子達は新しく建てられた教会のニーズを満たすことに熱心でした。神様から与えられた祝福に対して霊的に応えていますか。この弟子達と同じような態度がありますか。

金銭ではなく神様を愛するべきです。これは、いつの時代でも全ての弟子が直面する課題です。金銭に固執していると霊的で情熱的に献げる弟子ではなく、自己保身の臆病な人になってしまうのではないのでしょうか。神様の栄光を帰す機会を逃さないようにしましょう！

課題：神様に栄光を返すために金銭をどのように使いたいか、書き出してみましよう。

## 28日目 ディサイプラーとしての弟子 ① 土台は築かれた

学びの柱： 他の人をディサイプルするための実践的な手法を学びましょう。イエスが残した大宣教命令(グレート・コミッション)には弟子をつくり、その弟子が弟子をつくりなさい、とあります。

### Ⅱテモテ3:16 - 17

聖書は全て神の霊の導きの下に書かれ、人を教え、戒め、誤りを正し、義に導く訓練をするうえに有益です。こうして、神に仕える人は、どのような善い業をも行うことができるように、十分に整えられるのです。

### Ⅱコリント 11:16 - 29

もう一度言います。だれもわたしを愚か者と思わないでほしい。しかし、もしあなたがたがそう思うなら、わたしを愚か者と見なすがよい。そうすれば、わたしも少しは誇ることができる。わたしがこれから話すことは、主の御心に従ってではなく、愚か者のように誇れると確信して話すのです。多くの者が肉に従って誇っているのです、わたしも誇ることにしよう。賢いあなたがたのことだから、喜んで愚か者たちを我慢してくれるでしょう。実際、あなたがたはだれかに奴隷にされても、食べ物にされても、取り上げられても、横柄な態度に出られても、顔を殴りつけられても、我慢しています。言うのも恥ずかしいことですが、わたしたちの態度は弱すぎたのです。だれかが何かのことであえて誇ろうとするなら、愚か者になったつもりで言いますが、わたしもあえて誇ろう。彼らはヘブライ人な

のか。わたしもそうです。イスラエル人なのか。わたしもそうです。アブラハムの子孫なのか。わたしもそうです。キリストに仕える者なのか。気が変になったように言いますが、わたしは彼ら以上にそうなのです。苦勞したことはずっと多く、投獄されたこともずっと多く、鞭打たれたことは比較できないほど多く、死ぬような目に遭ったことも度々でした。ユダヤ人から四十に一つ足りない鞭を受けたことが五度。鞭で打たれたことが三度、石を投げつけられたことが一度、難船したことが三度。一昼夜海上に漂ったこともありました。しばしば旅をし、川の難、盜賊の難、同胞からの難、異邦人からの難、町での難、荒れ野での難、海上の難、偽の兄弟たちからの難に遭い、苦勞し、骨折って、しばしば眠らずに過ごし、飢え渴き、しばしば食わずにおり、寒さに凍え、裸でいたこともありました。このほかにもまだあるが、その上に、日々わたしに迫るやっかい事、あらゆる教会についての心配事があります。だれかが弱っているなら、わたしは弱らないでいられるでしょうか。だれかがつまずくなら、わたしが心を燃やさないでいられるでしょうか。

#### I コリント 1:1 - 3

神の御心によってキリスト・イエスの使徒とされたパウロと、兄弟テモテから、コリントにある神の教会と、アカイア州の全地方に住む全ての聖なる者たちへ。わたしたちの父である神と主イエス・キリストからの恵みと平和が、あなたがたにあるように。わたしたちの主イエス・キリストの父である神、慈愛に満ちた父、慰めを豊かにくださる神がほめたたえられますように。

#### 使徒 20:25 - 27

そして今、あなたがたが皆もう二度とわたしの顔を見ることがないとわたしには分かっています。わたしは、あなたがたの間を巡回して御国を宣べ伝えたのです。だから、特に今日はっきり言います。だれの血についても、わたしには責任がありません。わたしは、神の御計画を全て、ひるむことなくあなたがたに伝えたからです。

#### I コリント 4:17

テモテをそちらに遣わしたのは、このことのためです。彼は、わたしの愛する子で、主において忠実な者であり、至るところの全ての教会でわたしが教えているとおりに、キリスト・イエスに結ばれたわたしの生き方を、あなたがたに思い起こさせることでしょう。

これは世界を伝道するための神様のシンプルな計画です。新しい弟子の成長によって、次の人の成長が助けられるのです。こうして教会を成熟に導く労力が一部ではなく全員の肩にかかるのです。今日からの3日間で、若い弟子を成長させるための実践方法を紹介します。素晴らしいディサイプリング関係のために、必要な土台について考えましょう。

1. II テモテ 3:16 - 17 ディサイプリング関係の基礎は神の御言葉です。聖書は全ての弟子が信仰において成熟するための手段です。あなたは DP タイムに聖書を使いますか。人を導くために聖書を土台に話しますか。

2. II コリント 11:16 - 29 人にインパクトを与えなければ、自ら模範となることです。この点でパウロは霊的な史上最高の指導者です。パウロの強みは模範となることでした。私達も祈り、聖書の学び、伝道、子育て、夫婦関係などにおいて先頭に立つべきです。あなたの弟子への模範は生き生きとしていますか。
3. I コリント 1:1 - 3 パウロは罪深かったコリントの教会にもビジョンがありました。彼はコリントの弟子達を聖なる者と見ていました。パウロは愛とビジョンで弟子達を鼓舞しました。あなたは弟子を信じていますか。弟子が主のために素晴らしい働きをすると期待していますか。その期待を分かち合っていますか。
4. 使徒 20:25 - 27 パウロは弟子を訓練するとき、御心を全ての領域で行ないました。キリスト教のある一部分ではなく、全ての面にフォーカスしました。パウロは成熟した幅広い弟子を育てたかったのです。あなたは弟子の人生の様々な面にフォーカスしていますか。あなたが弟子に対して助けている領域をリストにしてみましょう。
5. I コリント 4:17 テモテはパウロの素晴らしい弟子でした。だからこそ、テモテは他の人を訓練できたのです。ここに重要な霊的な原則が働いています。弟子を育てるためにはあなた自身が良い弟子にならなくてはなりません。弟子は自然とあなたを真似ます。あなたが良い弟子でないなら、あなたの弟子も良い弟子にはなりません。あなたは弟子に対して不満がありますか。問題はあなた自身にあるのかもしれませんが。

弟子の成長には、効果的なディサイプリング関係の土台が重要です。全ての DP タイムで聖書を使ってください。素晴らしい霊的な模範を示してください。いつも彼らにビジョンを持ってください。神様の全ての意志を教え、自分自身が素晴らしい弟子になってください。これらの基礎があれば、あなたはどんな人の霊的成長をも助けることができます。

課題：ディサイプラーに対してあなた自身が良い弟子である点を書き出してください。

## 29日目 ディサイプラーとしての弟子 ② 関係を深める

学びの柱：ディサイプラーとして弟子にインパクトを与えるためには、深い関係を築かなければなりません。

I テサロニケ 1:2 - 3

わたしたちは、祈りの度に、あなたがたのことを思い起こして、あなたがた一同のことをいつも神に感謝しています。あなたがたが信仰によって働き、愛のために労苦し、また、

わたしたちの主イエス・キリストに対する、希望を持って忍耐していることを、わたしたちは絶えず父である神の御前で心に留めているのです。

#### I テサロニケ 2:6 - 12

また、あなたがたからもほかの人たちからも、人間の誉れを求めませんでした。わたしたちは、キリストの使徒として権威を主張することができたのです。しかし、あなたがたの間で幼子のようにになりました。ちょうど母親がその子供を大事に育てるように、わたしたちはあなたがたをいとおしく思っていたので、神の福音を伝えるばかりでなく、自分の命さえ喜んで与えたいと願ったほどです。あなたがたはわたしたちにとって愛する者となったからです。兄弟たち、わたしたちの労苦と骨折りを覚えているでしょう。わたしたちは、だれにも負担をかけまいとして、夜も昼も働きながら、神の福音をあなたがたに宣べ伝えたのでした。あなたがた信者に対して、わたしたちがどれほど敬虔に、正しく、非難されることのないようにふるまったか、あなたがたが証しし、神も証ししてください。あなたがたが知っているとおりに、わたしたちは、父親がその子供に対するように、あなたがた一人一人に呼びかけて、神の御心にそって歩むように励まし、慰め、強く勧めたのでした。御自身の国と栄光にあずからせようと、神はあなたがたを招いておられます。

イエスが与えた命令は、全ての国に行き、弟子をつくることでした。これは大きなチャレンジであり、歴史的に知られる限り、一度しか達成されていません。1世紀の弟子達は彼らの世界を伝道することができました(コロサイ 1 : 6, 23)。彼らは電話、パソコン、車、飛行機などを使わずに達成したのです。彼らが持っていたのは素晴らしい関係でした。教会の力とはミニストリー手法以上に、弟子同士の深い関係です。通常、人々ほどのように深い関係を築くのか知りません。全ての弟子は永遠の深い関係の築き方を学ぶべきです。迫害されたときでも、この世から私達を守り助けるのはこの親しい関係です。今日のレッスンでは、どのように親しいディサイプリング関係を築くかを考えます。

1. I テサロニケ 1:2 - 3 誰かと深い関係を築くために大切なことは、祈ることです。パウロは継続的に教会や弟子達のために祈りました。あなたが誰かのために祈るとき、あなたは彼らのニーズを考え、共感し、憐れみの心を成長させるでしょう。弟子達のために継続的に祈っていますか。
2. II テサロニケ 2:6 - 7 弟子と関係を始める際には優しさを学びましょう。威圧的に始めるなら弟子との間に壁を築くようなものです。パウロは母が子の世話をする比喻を用いました。乳幼児に対して母親は優しく慈しんで世話をするものです。訓練や躾は子どもが成長してからのことです。
3. I テサロニケ 2:8 - 9 弟子と深い関係を築くために彼らを愛しましょう。友情関係を喜び、楽しみましょう。パウロはテサロニケの教会を愛し、彼らもそれを知っていました。あなたの弟子もあなたの愛を知っていますか。パウロは弟子達と人生を分か

ち合いました。苦悩や葛藤を正直に語りました。弟子達はパウロの過去、強さ、弱さ、恐れを知っていました。パウロは弟子達と時間を過ごしました。人々と時間を過ごすことで互いに知り合うことができます。あなたは自分の人生を弟子達と分かち合っていますか。あなたは弟子達と時間を過ごしていますか。毎週同じ時間ですか、変動的ですか。スケジュールに組み込まなければ流されてしまうことがあります。

4. I テサロニケ 2:10 - 12 パウロはいつも弟子達を励まし、慰め、力付けていました。ただ訓練だけ、叱責だけ、または励ますだけ、慰めるだけではバランスが偏ります。これらの要素が全て組み合わせられ、丁度良いバランスが必要です。バランスが取れているか、常に確認してください。

イエスは弟子達にご自身の人生を注がれました。その結果、彼らはイエスから与えられた目的を達成することができました。この原則をあなたのディサイプリング関係に実践するならば、神様はあなたに同じ結果を与えるでしょう。

課題: あなたは親しい関係を築くことが上手かどうかディサイプラーに質問してみましょう。

### 30日目 ディサイプラーとしての弟子 ③ 訓練を始める

今日のレッスンでは、あなたの弟子に対するディサイプリング手法について、以下の項目に沿ってチェックしてみましょう。信仰生活の各領域を網羅して弟子の成長を助けているかどうかを確認するのは良いことです。具体的に弟子と話し合うポイントを挙げているので、自分に当てはめてください。(トロント・キリストの教会の小冊子より引用)

何より自分が率先してやっていますか。弟子に祈りを教えましょう。

マタイ 6:9 - 15

だから、こう祈りなさい。『天におられる私たちの父よ、御名が崇められますように。御国が来ますように。御心が行われますように、天におけるように地の上にも。私たちに必要な糧を今日与えてください。私たちの負い目を赦してください、私たちも自分に負い目のある人を赦しましたように。私たちが誘惑に遭わず、悪い者から救ってください。』もし人の過ちを赦すなら、あなたがたの天の父もあなたがたの過ちをお赦しになる。しかし、もし人を赦さないなら、あなたがたの父もあなたがたの過ちをお赦しにならない。』

#### A) フォロー・アップ

前回到話した内容をどのように実践したかフォローしましょう。決まった DP タイムでも、その都度の交わりでも。

## B) 結婚関係

結婚している人なら、以下は話すべき話題です。他のどの人間関係よりも影響を及ぼすからです。

1. 夫の役割（エペソ 5:25 - 33 / I ペテロ 3:7）
2. 妻の役割（エペソ 5:22 / I ペテロ 3:1 - 6）
3. 時間を過ごした時に見える助けの必要なこと
4. 家計について
5. 夫婦で祈っているか

## C) 子育て

子どもがいる人なら、以下は話すべき話題です。子どもは両親に重大な影響を与えるからです。

1. 子どもについてどんな心配ごとでも
2. 躰について
3. 子育ての上で夫の役割、妻の役割についての疑問や葛藤
4. いつも決まった時間にファミリーデイボをやっているか

## D) デート関係

独身者であれば、以下は話すべき話題です。

1. 純潔について（エフェソ 5:3 - 4）
2. 関係が先走っていないか
3. 性格的に改善や悔い改めが必要な部分

## E) 人生を支配する罪への取り組み

弟子の人生に繰り返される罪を放置してはいけません。

1. サタンからの誘惑を甘く見てはいけないこと（ルカ 4:13）
2. 自分を過信してはいけないこと（I コリント 10:12）
3. 古いものを脱ぎ捨て新しいものを着ること（エフェソ 4:20 - 5:3）

## F) 聖書の学び

話すべきポイントは以下の通りです。

1. 若い弟子のフォローアップ・スタディ・シリーズのトピックについて
2. 弟子のクワイエットタイムについて（疑問点、質問、学んだこと）
3. 自分のクワイエットタイムについて
4. 日曜礼拝やデイボーショナルの説教やレッスンについて

## G) 伝道



話すべきポイントは以下の通りです。

1. どのように伝道しているか
2. 問題、躊躇、失望はないか
3. 勉強しているノンクリスチャンに具体的にどう接するか
4. ノンクリスチャンの勉強と一緒に入ったときのその弟子の発言について
5. 臆病を乗り越え、大胆に伝道することについて

#### H) 他のクリスチャンを助けること

ディサイプリングが続くにつれて、あなたの弟子は他の人々をディサイプルできるようになるという信仰が必要です。

1. 他の人にどのように介入したら良いか、何か問題はあるか
2. 他の人の心や問題を見極めることができているか

#### D) 神様との歩み

話すべきポイントは以下の通りです。

1. 信仰によって歩んでいるか
2. 救われている確信に対して敏感か
3. 人生に平和があるか
4. 感謝の心があるか
5. 常に恵みに動機づけられているか
6. 大胆さにおいて成長しているか
7. 不平不満の心はないか
8. ベストを尽くしていない点はないか
9. 他の人をディサイプルするときに解決志向のフォーカスがあるか



聖霊の風